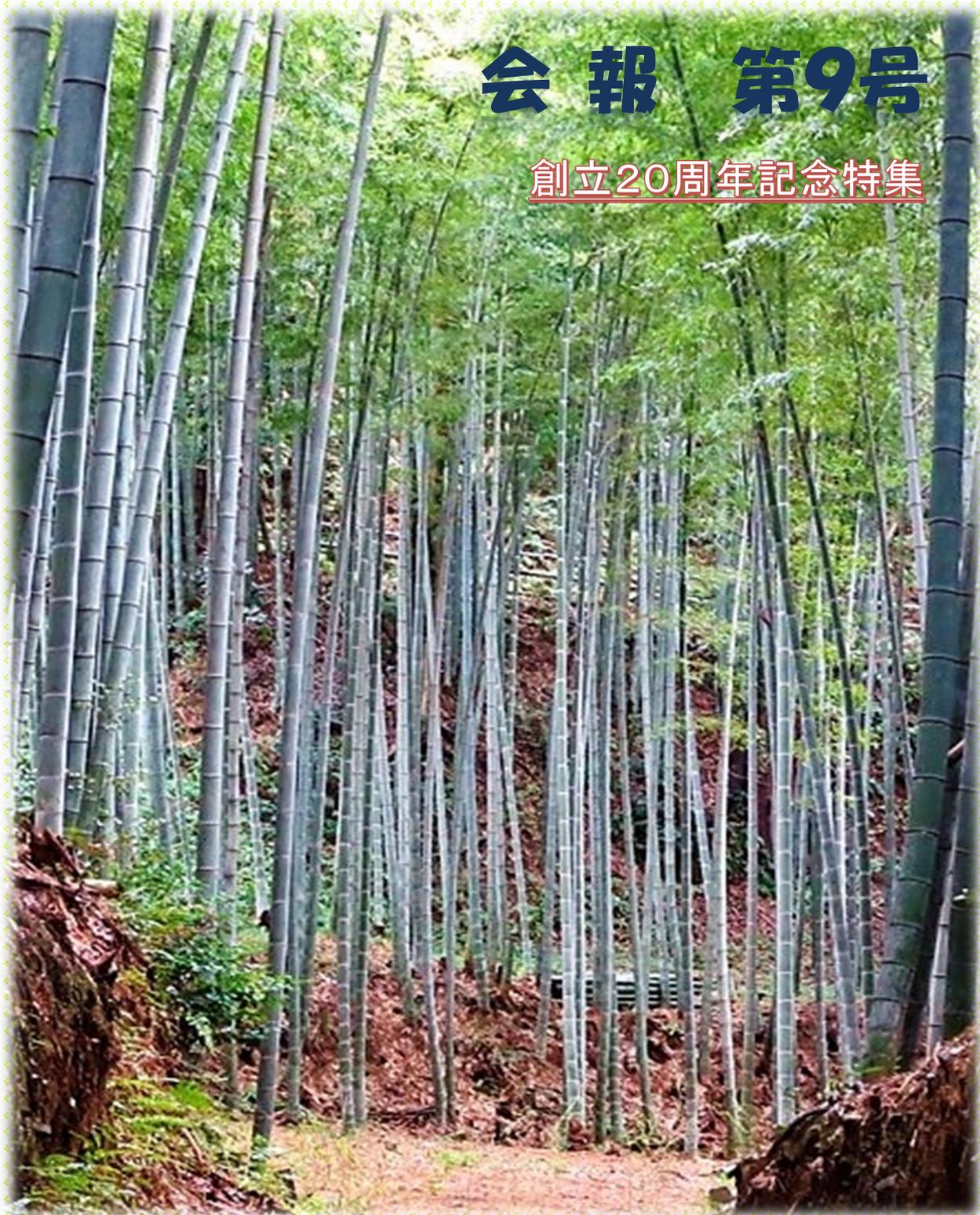


NPO 法人

# 八幡たけくらぶ

## 会報 第9号

創立20周年記念特集



創ろう！自然豊かな環境・  
受け継ごう次世代へ！

**2019年度～2022年度**

竹に親しむ仲間の活動記録

# 八幡たけくらぶ

## 活動基本方針

- 1 八幡市及びその周辺の里山あるいは竹林を、本来の景観に取り戻し、竹林と雑木林の共生を図り、かつ維持するようにボランティア活動をする事。
- 2 里山あるいは竹林の所有者との合意に基づき、景観保全のために以下の活動を行う。
  - ① 該当地区の植生調査、生態観察
  - ② 竹林の間伐、除伐、下草刈り作業
  - ③ 廃材の処分及び有効活用
- 3 廃材としての竹材の有効活用を通じて、環境保全を図るために次の活動を行う。
  - ① 粉碎された竹チップとその環境保全への利用並びにその利用方法の研究
  - ② 竹を通じて里山の自然に接し、学校教育や地域の子供会行事等への支援活動
- 4 会員は上記活動のために、里山管理・竹林管理・竹細工などの基本を学び、作業を通じて技術の習熟と蓄積に努め、かつ会員相互の親睦を図る。

### 4つのお役立ち

1. 竹林整備活動を通じて、里山の環境保全にお役立ちする。
2. 地域奉仕活動を通じて、まちづくりにお役立ちする。
3. 竹細工教室を通じて、子供の健全育成にお役立ちする。
4. 会員に「やりがい」や「生きがい」の場を提供する。



# 目 次

	ページ
はじめに／竹下理事長	1
会報9号発刊に寄せて・祝辞／堀口八幡市長	2
男山の環境保全と竹林／石清水八幡宮 木下禰宜	3
会報9号発刊に寄せて／京都府山城広域振興局 馬瀬課長	4
竹林整備活動	5
安全活動の取り組み	10
同好会活動	12
活動拠点の取り組み／男山展望台	15
表彰・受賞	25
一般公募活動	26
竹細工体験教室	29
竹あかりイベント	31
クリーン活動／恐竜プロジェクト	35
会員の親睦	36
会員紹介	40
会員数・活動回数の動向	43
マスメディア／報道	44
創立20周年特集／歴代役員	47
創立20周年特集／特別掲載(理事長・永年会員)	49
八幡たけくらぶの沿革	53
会報9号編集後記	54



# はじめに

NPO 法人 八幡たけくらぶ 理事長 竹下 修史



五名の有志が集まり「八幡たけくらぶ」を立ち上げて20年の月日が流れました。その間、自然環境を美しく維持するため樹木林と竹林を仕分けして共生することを目指して放置竹林整備に精を出してきました。20年もの長きに亘り活動を続けられたのも会員の皆様はもちろんの事、地権者の皆様方並びに行政関係者の方々の長年のご理解とご協力があったからこそこの事を成すことができました。

を借りて厚く御礼申し上げます。

## 竹林整備

さて、放置竹林は今や竹害とも云われるようになって参りました。放置竹林では竹は隙間なく林立し、その間に枯れた竹が倒れたり折れたり、更には周囲の竹に寄りかかったりしてとても竹林には足を踏み入れられない状態です。管理されていない竹林は境界線を越え他人の敷地に侵入したり、アスファルトの道路を押し上げて亀裂を生じさせたりします。この様な状態を避けるため、コツコツと枯れ竹を取り除き密集した竹は間引きをして風通しを良くして幾分かでも日が射し込む様にしていかなばならず、放置竹林の整備は大変骨の折れる作業になります。また、放置された竹林では炭素固定(炭酸ガス吸収量及びその後の炭素隔離量)が極めて悪く、中国モミ林の約30%しか無いとの報告(Bamboo and Climate Mitigation)もあり、放置竹林を整備し、管理された竹林に戻すことは地球温暖化対策にも少なからず役立つものと思っております。



竹の根によるアスファルトの亀裂

## 竹の利用拡大

最近新たにチャレンジしている領域が3つ加わりました。一つ目は通常竹細工と言われている竹かご製作の検討です。既に数人の会員がリーダーのもと、切磋琢磨して竹ひご作りに奮闘しています。竹で籠などを編むときは竹ひごの出来不出来が作品作りに大きく影響しますので、竹ひご作りは最も大切な作業です。二つ目は竹あかりの作製と展示です。竹あかり作製経験者が会員になり、指導者となってエジソンフィラメントで世界的に有名な八幡の竹を使って竹あかりを作製し、様々なイベントの際に展示して竹あかりの幻想的な美しさを広めています。三つ目は最近やっと製作段階に入ったばかりなのですが、竹紙の精製に興味を持つ会員が竹の繊維(維管束)を取り出し、叩き潰して竹紙製作に奮闘しています。

これらのチャレンジはいずれも竹林整備により伐採した竹を利用して進めていく作業であることから、竹を有効活用する一旦を担っているものと考えています。

我々「八幡たけくらぶ」は放置竹林の整備を根本に据えながら、自然環境を保護し、尚且つ竹の利用価値を高めていきたいと考えておりますので今後とも我々の活動に末永く応援を頂ければ有難く存じます。

# 会報9号発刊によせて

## 祝 辞

八幡市長 堀口 文昭



NPO 法人 八幡たけくらぶ創立20周年の記念すべき年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。また会報第9号のご発刊、心からお祝い申し上げます。

八幡たけくらぶにおかれましては、平成15年4月に5人の発起人が第一歩を踏み出され、その後、NPO 法人化を経て、今日では八幡市のみならず他府県の方々も参加されていると伺っております。多年にわたり、竹林整備活動を通じた環境整備や、地域奉仕活動を行っていただいております皆様の多大なるご尽力に深く敬意を表します。

さらに、トーマス・エジソンが男山の真竹を使用し白熱電球の実用化に成功したことにちなんだ「あかりの日」に、竹筒の中にLEDを灯した演出「竹あかり」を開催され、まちを光で彩られました。

また、昨年には市内の幼稚園、保育園児の製作した竹筒を用い、「竹あかりの夕べ」を開催いただきました。このような催しは、本市の観光振興と児童の健全育成にも大きく寄与するものであり、重ねて感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、本市では11月1日に市制施行45周年を迎え、記念式典を執り行うとともに、新本庁舎の落成記念式典も挙行了いたしました。昭和52年11月の市制施行以降、市民の皆さまをはじめ、国、京都府、近隣自治体及び関係団体の皆さまのご尽力により、これまで本市は発展を遂げてまいりました。

先人の方々への感謝と敬意を表しますとともに、その知恵を生かしながら、就任以来心がけている「一歩前」の姿勢で、市民の皆さまとともに、多くの方がいつまでも輝き「住んでよし、訪れてよし」と思っただけの魅力あるまちづくりに向けて、市制の新たな一歩を踏み出してまいります。

これまでの歩みと同様、今後も貴法人と本市が同じ時を刻み、共に発展していけることを願っております。

結びに、竹下理事長を先頭に八幡たけくらぶの皆様のご更なるご活躍とご健康を祈念いたしまして、お祝いの辞とさせていただきます。



## 男山の環境保全と竹林

石清水八幡宮 禰宜 木下 龍光



石清水八幡宮の鎮座する男山(雄徳山)は創建以来八幡大神を祀る鎮守の杜として悠久の歴史をつむぎ、現在に至るまでその時々関係者により豊かな自然が保全されてきました。この男山は古来よりの原生林を保持していることから昭和58年3月15日に京都府の歴史的な環境保全地域第1号に指定され、山内に群生するヤマアイやオオカナワラビ・リョウメンシダなど14種類の植物が採取禁止となっております。

さて、八幡で採取した真竹が白熱電球のフィラメントに採用されるなど、当宮の真竹は歴史的に見ても昔から重宝されてきました。然しながら、男山に自生する真竹や雑木林は徐々に孟宗竹に浸食され、現在は真竹の自生範囲は限られ、孟宗竹が猛威をふるっております。そのような状況の中、ボランティア活動を申し出ていただいたのが八幡たけくらぶの皆様でした。年間を通じ参道際の竹林整備や伐採竹のチップ化に助勢いただき、更には展望台の景観改善にも一役かっただけいでいるなど並々ならぬご努力も高く評価できることと拝察いたします。皆様の活動のお陰をもちまして、参拝者の方に気持ちよくお参りをいただけますことは、当宮にとっても大変ありがたい事であり、重ねて厚く御礼申し上げる次第でございます。

結びにあたり、今後何百年もこの豊かな自然を後世へ護り伝えるためには当宮だけではなく、ご関係各位のお力添えを頂きながら共に歩んでいかなければなりません。八幡たけくらぶの皆様には引き続きのご協力をお願い申し上げ、日頃よりのご尽力に心より感謝申し上げます。



## 会報9号発刊に寄せて

京都府山城広域振興局農林商工部森づくり振興課  
課長 馬瀬 義博



このたび、NPO法人八幡たけくらぶが創立20周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

平素は京都府政の推進、とりわけ森林・林業行政施策に対し、格別の御理解と御協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

八幡たけくらぶにおかれましては、2003年4月に任意団体として発足されて以来、男山散策路周辺における環境保全のための放置竹林整備等里山の姿を取り戻す活動や竹細工体験教室をとおした学校教育や子供会行事への支援活動等、会の活動基本方針に基づいて活発に活動されておられることに敬意を表するものであります。

創立から20年の間、八幡市はもとより近隣の市町村をはじめ他府県からも会員の加入を得て、こうした活動を継続・発展されておられるのは、地域の方々を含め多くの方々から会の活動に対する御理解や高い評価を得ておられることに加え、安全に作業を行うためのマニュアル作成や安全講習の実施など、皆様が御研鑽と御努力いただいております成果であり、他の森林ボランティア団体の範になるものと考えております。

里山を含めた森林が果たす役割に対する期待が高まる中、森林活動の技術やノウハウをさらに高められ、引き続き森林の利用や保全の一翼を担っていただき、森林環境学習を通じた青少年の健全な育成や、多くの方々の里山地域への誘導・森林への関心を高めるPRなどに取り組んでいただくことを期待しております。

京都府においては、八幡たけくらぶをはじめとする地域の団体や企業、多くの府民の皆様にご参加いただき森林整備活動を進める京都モデルフォレスト運動に取り組んでおります。府民の皆様にご協力をいただいている「京都府豊かな森を育てる府民税」等も活用しながら、連携して府民ぐるみの健全で多様な森づくりを進めて参りますので、引き続き御協力をお願いいたします。

結びに当たりまして、八幡たけくらぶのますますの御発展と皆様の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉といたします。





# 竹林整備活動

会報8号(2019年5月)発行後、新型コロナウイルス感染症が急速に猛威を振るいあつという間に拡大しました。

竹林整備に於いても少なからず影響を受けると共に行動制限を受けましたが、感染対策にしっかり取り組みながらまた、会員の皆さんの協力を頂きながらこの4年間では、上林 F の石清水八幡宮への寄進により整備するフィールドは8カ所から7カ所へ減少しましたが、整備面積としては13haを維持し続けています。

竹林整備活動では、大きく分けて三つの取り組みに力を入れて継続実施しており、その一つが文字通り竹林の整備で健全なる竹林作りに向け放置竹の伐採や皆伐による樹木の育成です。近年になって定例整備活動に加え第三者の団体・個人の方の依頼により徐々に活動範囲が増加してきました。

二つ目は、粉碎活動で2020年には、里山再生協議会\* に新たに粉碎機を一台導入して頂き、たけくらぶの専用機と自持機との2台体制で定期的粉碎を実施しています。

三つ目は、筍の処理です。筍掘りは会員唯一の楽しみでもありますが、健全な竹林の維持のためには、この時期大切な作業になります。筍は成長が早く処理範囲も広いことから一時期に多くの会員の協力が必要となっています。

処理の一環として、過去より一般公募による竹林整備を実施していますが、2020年～2021年はコロナ禍で中止しました。2022年より感染対策をしっかりした上で再開しました。また、2020年から掘った筍の一部を缶詰工場へ提供するなど処理の効率化も進めてきました。

\*里山再生協議会:八幡市農業振興課に事務局を置くもので、2 団体が所属する協議会(NPO 法人 八幡たけくらぶ、 NPO 法人 とんかち)

## 「活動場所及び面積」

活動場所	活動開始	面積	活動場所	活動開始	面積
小谷 F	2006年～	0. 6ha	本妙寺 F	2014年～	0. 4ha
島田 F	2009年～	1. 5ha	内里 F	2016年～	2. 9ha
石清水 F	2011年～	2. 8ha	円福寺 F	2018年～	2. 7ha
展望台 F	2013年～	2. 1ha	計	7地域	13ha

F:フィールド

## I. 竹林整備

### ① 各フィールドに於ける竹林整備

各フィールドの竹林整備については、毎月実施日を決めてフィールドリーダーを中心に整備することでほぼ計画通り実施できましたが、円福寺 F は、皆伐で整備面積も広いことから当初の2021年度末に完了することが出来ませんでした。

円福寺 F では、2019年より「森林・山村多面的機能発揮対策」交付金により実施してきましたが、2021年度(3年目)で終了となったことから、新たに2022年度より「森林づくり基金」の交付金を活用して、1. 8ha の皆伐に向け整備日を1回/月から2回/月に増やして樹木林の再生に集中して実施してきました。

また、伐採作業では、チェーンソーに加え2021年度より電動鋸も導入して作業効率化を図っています。

## 竹林整備活動

### 【円福寺 F 皆伐状況】



竹の皆伐と粉碎材を堆肥にして樹木の育成と再生を図る

### 【電動鋸(レシプロソー)使用状況】



地際での低姿勢作業も容易

② 依頼に基づく竹林整備については、2020年頃より少しずつ依頼が来るようになりました。

・2020年は2件、6日間(延べ50人) ・2021年は2件、7日間(延べ97人) ・2022年は4件、9日間(延べ99人)

### 【依頼先の作業前の状況】



枯竹・斜め竹が密集し作業に入り難い状況

### 【作業後の状況】



処理竹を一箇所に集積した状況

## II. 粉碎活動

粉碎活動については、騒音問題もあり実施するフィールドが制限され、現在では円福寺 F を中心に内里 F、展望台 F、石清水 F で実施しています。また、依頼に基づく粉碎も実施しています。2020年9月からは、2台の粉碎機を内里 F と円福寺 F に常設し効率的に粉碎を実施しています。整備面積の広い円福寺 F では、竹の皆伐と粉碎を同時進行することでより効率化が図れ、粉碎稼働時数・稼働人員も増加しています。

## 竹林整備活動

### 【粉砕作業の推移】



2020年度より粉砕機を2台体制にしたことや第三者からの粉砕依頼等により回数・人数ともに増加

#### ① 円福寺F 粉砕状況

粉砕機の粉砕能力から10cm程度より太いサイズは、粉砕せず切り口を揃えて野積みを行っています。

##### 【粉砕状況】



枝付き竹を中心に小サイズ竹の粉砕を実施

##### 【野積み状況】



大サイズ竹は揃えて野積することで美観に配慮

#### ② 依頼に基づく粉砕状況

##### 【粉砕前の状況】



##### 【粉砕後の状況】



## 竹林整備活動

### Ⅲ. 筍処理

筍処理は、ただ単に筍を掘るだけではなく、その後の竹林育成を考慮した処理が必要となることから、フィールド責任者を中心に選別処理を行っています。また、一般公募による筍掘りを兼ねた竹林整備を年1回実施し竹林整備の必要性をアピールしています。

【会員による筍掘り写真】



【一般公募竹林整備写真】



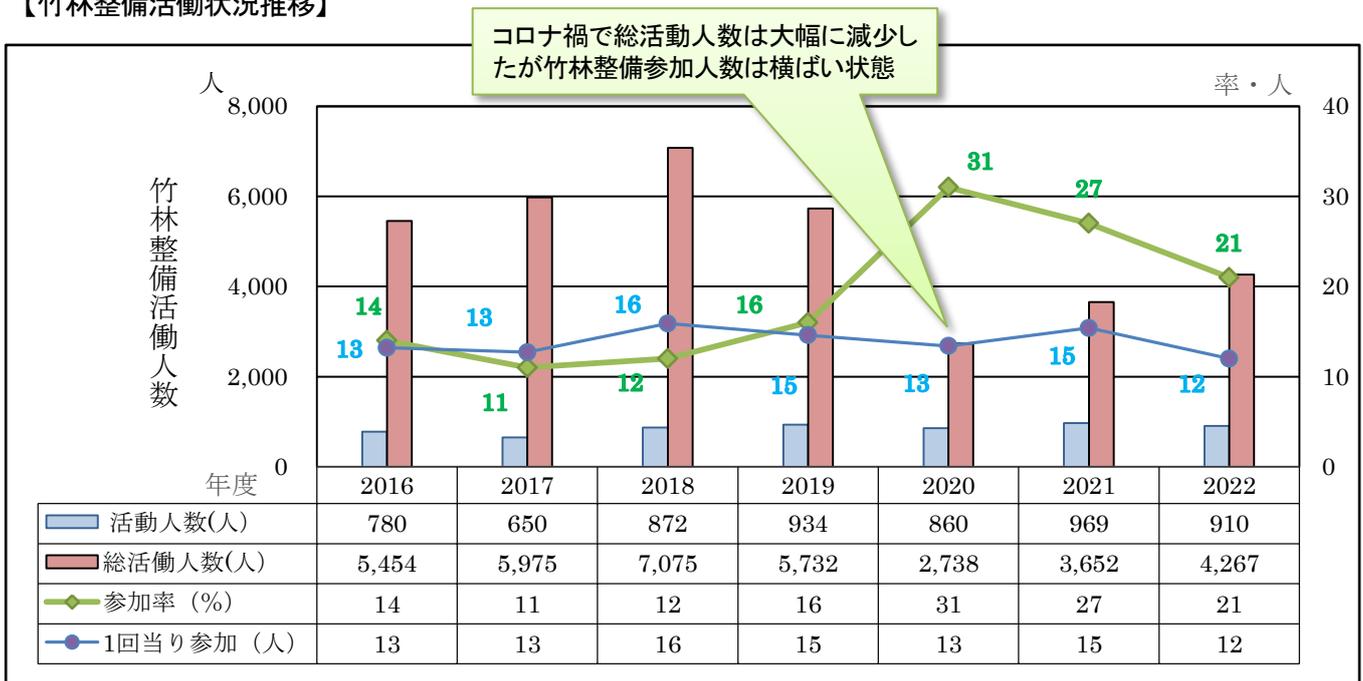
周囲の枯竹処理をしながら筍掘りを実施(2020年～2021年はコロナ禍により一般公募は中止)

### Ⅳ. 竹林整備に於ける問題点

会員の総活動人数に対する竹林整備への参加率を見ると2020年度より総活動人数が減少している中で、参加率は増加傾向にある様に見えますが、これはコロナ禍で他の活動を自粛した結果によるものと考えられます。

その中で、竹林整備は野外で活動しており感染対策が比較的可能であったため、竹林整備回数が増えた状況にありながら参加率が下がらなかったのは、会員の継続した積極的参加によるものと考えます。

【竹林整備活動状況推移】



注: 筍掘り作業除

## 竹林整備活動

竹林整備で1回当たりの参加者が比較的多いコロナ禍前の2018年とコロナ禍の2021年を比較しました。

【活動回数と回数当たりの参加人数比較】



2021年度は整備回数・総参加人数共増加しているが、1回当たりの参加人数はほぼ横ばい状態。

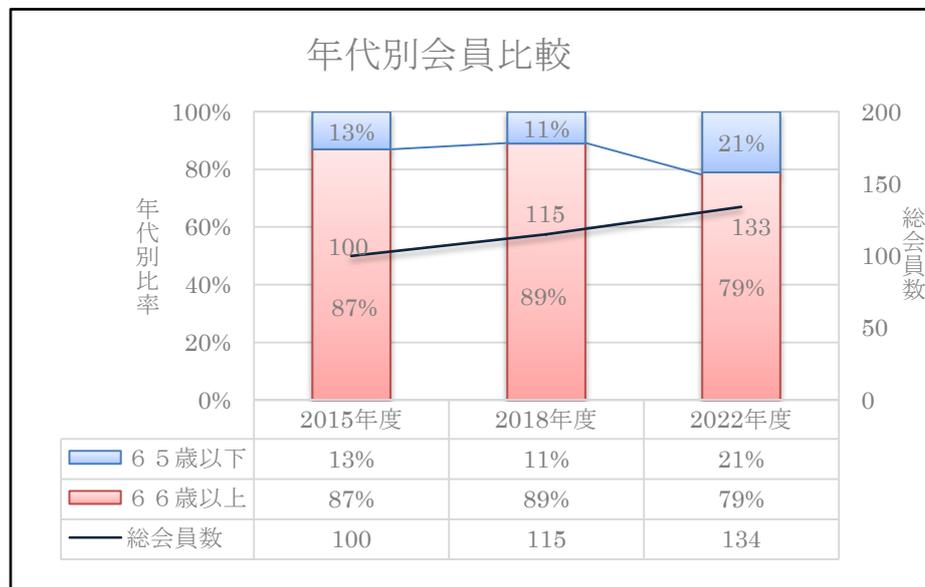
これは、竹林整備に参加する人がほぼ固定化していると言える。

【参加者の年齢層別比較】



参加者の平均年齢で71歳以上が占める割合を見ると下がってきているが、まだまだ高齢者が主体となっている。現役世代と言われる65歳以下の参加者を見ると2018年では0%に対して2021年は12%と増加している。

(参考) 年代別会員比較



代表される過去3年間の年代別会員数を見ると、総会員数が年々増加しており、その中で現役世代と言われる65歳以下の会員の割合が10ポイント増えている。

竹林整備に於ける問題点と言えば何といたっても参加者の高齢化問題です。

コロナ禍の2020年より仕事を持つ現役世代の会員が増えたことで、竹林整備に於いても若干平均年齢が下がっていますが、まだまだ高齢者によるところが大きいです。

近年、現役世代でも環境問題や竹あかり等で竹に興味を持つ人が増加しており色々なイベントを通じての入会が増えていることから、現役世代の会員も参加しやすい土日・祭日を中心とした活動が出来るよう検討が必要と考えています。

# 安全活動の取り組み

竹林整備活動は、安全に行うための「安全委員会」機能を柱に ここ10年で定着してきています。その主な活動内容は、 1. 各フィールドの年間整備計画の立案 2. ヒヤリハット事例の調査・報告と対策の立案 3. 安全作業講習・エンジン機器講習・救急講習・粉砕機講習 の企画・実施 4. 備品の購入と管理 5. 月毎の計画・確認と結果のフォロー です。

## ＜活動内容／安全講習(座学の模様)と現場実地講習の模様＞



安全講習／座学



ロープで倒す方向コントロール



剪定ハサミで枝切



Vベルトで2人運搬

20年の節目に当たり ここ6年間(2017年～2022年)のヒヤリハット事例を集計・分析し、今後の「竹林整備・安全活動」の指針作りの参考とします。

年度別の「ヒヤリハット事例報告全件数」とそのうちの「ケガ有件数」・「ケガ無件数」を「表①」に示します。

- (1) 2018年度は ヒヤリ報告最多(20件)で、ケガ有が半数(10件)を占めているのが懸念されます。
- (2) 2020年度はコロナ禍の影響で活動が制限されましたが、感染症対策をしてフィールド活動は継続しました。ヒヤリ報告はゼロ件でした。

表①:「年度別のヒヤリハット事例報告件数」

年度(年)	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
ヒヤリ全報告数(件)	9	20	14	0	17	3	63
うち ケガ有(件)	3	10	3	0	5	0	21
うち ケガ無(件)	6	10	11	0	12	3	42

「ヒヤリハット事例報告」の内容から見えてくること／☞ 表②:「傷害別」 表③「起因別」

- ① 「傷害別」では 「打撲」が最多(43%・9件)、次いで「裂傷」(33%・7件)でした。  
全体では、傷害(ケガあり)報告が21件でした。ボランティア保険適用は打撲で1件、裂傷で2件。
- ② 「起因別」では 竹切断時:11件、自身の転倒・転落:10件、かかり竹・枯れ木落下:9件、エンジン機器使用時:9件でこれらの合計は39件となり全体の93%でした。

## 安全活動の取り組み

表② 傷害別ヒヤリハット事例発生状況 <受傷:ケガあり:21件/ボランティア保険適用:3件: \* ○印>

傷害別	(計)	小谷	島田	上林	石清水	展望台	円福寺	内里	その他
打撲	9件/43%		1	1	2	1	4/*③		
裂傷	7件/33%			1/*①		2/*②	2	2	
虫刺され	3件/14%				1	1		1	
物損	2件/10%				1	1			
(合計)	21件/100%		1	2	4	5	6	3	

表③ 起因別(15ヶ条該当)ヒヤリハット事例発生状況 <受傷ケガ無し:42件>

起因別/15ヶ条該当	(計)	小谷	島田	上林	石清水	展望台	円福寺	内里	その他
竹切断・落下・方向誤認 /2, 4, 5, 7, 9, 11, 12条	11件 /26%				2	3	1	5	
自身の転落・岩・枯木・枯竹/ 3, 6, 13条	10件 /24%	2	2		2	1	1	1	1:藤村
かかり竹切断・枯れ木等落下 /8, 9, 12条	9件/21%				3	3	3		
エンジン機器/粉碎機、チェンソー、刈払機/1, 2条	9件/21%			1	3		3	1	1:西尾駐
その他・状況/ 14, 15条	3件 /8%		1	1	1				
(合計)	42件 /100%	2	3	2	11	7	8	7	2

今回、これまでにない起因(竹の斜め伐りの発覚⇒写真参照)が、その他のヒヤリハット報告にありました。そこで「安全作業の約束」をこれまでの14ヶ条から15ヶ条に見直しました。(14ヶ条目:「竹の斜め伐りは絶対にしないこと」を追加。右:「安全作業の約束15ヶ条」参照)



このボトムアップのヒヤリハット報告活動は今後も続けていく必要があります。

今回の分析から、二つの「気づき」がありました。

- ①経験の少ない方は、竹林現場での危険予知が難しい。そこで、先輩の経験者とペアで作業・行動をとってもらうことも必要になります。
- ②先輩の経験豊富な方には、定例作業後半の疲労がたまってきたとき、集中力の低下や、周囲への目配りが低下してきます。このような時には作業を止める決断をする勇気を持ってもらうことも必要になります。

以上2点の「気づき」をしっかり守る事で、一層「安全な竹林整備作業が行えるのではないのでしょうか！」

### 安全作業の約束 15ヶ条

- 1.3~5人のグループ作業の徹底
- 2.グループ間は20m以上離れる
- 3.切り株・岩・石の足掛りは要注意
- 4.斜面の作業は上下の位置関係は不可
- 5.倒す方向の安全性を事前確認
- 6.竹の移動はベルトを使用し二人作業で
- 7.切った竹の谷側への暴走予防を計る
- 8.懸り竹の分断は上下部分の暴走注意
- 9.懸り竹になった瞬間の枯れ枝落下注意
- 10.切り倒しの瞬間、株元の跳ね上り注意
- 11.適曲した竹を上から切る時の注意
- 12.支えのロープは60~90度の開き角で
- 13.枝払いや枝の始末はゴーグル着用
- 14.竹の斜め伐りは絶対にしないこと
- 15.ヒヤリハットや軽微な受傷も必ず報告

~まとめ~

- ★自分の安全は自分で守る!
- ★他に危害を及ぼさない配慮!



# 同好会活動

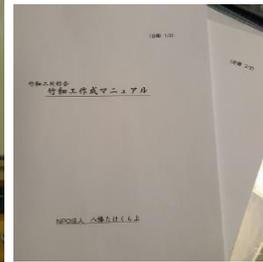
同好会活動はたけくらぶ会員全員が対象で自主参加です。竹細工教室 燻竹同好会 竹ひご・竹籠づくり教室 竹紙サークルと多岐にわたって竹と向き合っています。

竹細工教室 講師は会員です (1回/月)

今回のテーマは「四海波籠づくり」3時間後全員完成しました



都度の作品づくり工程を「竹細工作成マニュアル」として冊子にしています



燻竹(いぶしだけ)同好会 竹を燻して黒い光沢を出し竹細工製品を作ります (1回/月)

青竹を窯に吊るします



燻中は火の勢い・燃料調整、煙の色具合の観察、外気温との兼ね合い等留意点が多くあります

火入れから24時間後の燻竹



## 同好会活動

### 竹ひご・竹籠づくり教室

竹ひごから 花器、コーヒードリッパー、バスケット、毬と作製者が思いを込めて編みあげていきます。



リーダーの  
手元を見て 聞いて ナイフを使って覚えていきます



#### 竹ひごづくり

- ① 竹を割り ② 割った竹を剥ぎ厚さ揃え
- ③ 幅決め 面取り 厚さ決めと進み完成です



竹ひごができれば編んでいきます



## 同好会活動

### 竹紙サークル

竹から紙を作る！2022年、新たなチャレンジです。

タケノコから若竹に成長しつつある孟宗竹を短冊切りにし約2年間浸漬し繊維を取り出し(画像1)、洗いながら繊維を1本ずつほぐし鍋で炊く(画像2)、これを石臼に入れひたすら叩き(画像3)水中で保管、水に浸して紙に漉き(画像4)、乾燥(画像5)させて出来上がりです。

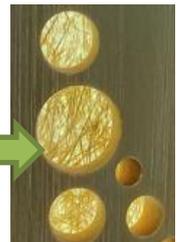


出来上がった竹紙



竹あかり

竹紙を施した竹あかりは竹の繊維を通った光に趣がでます



5

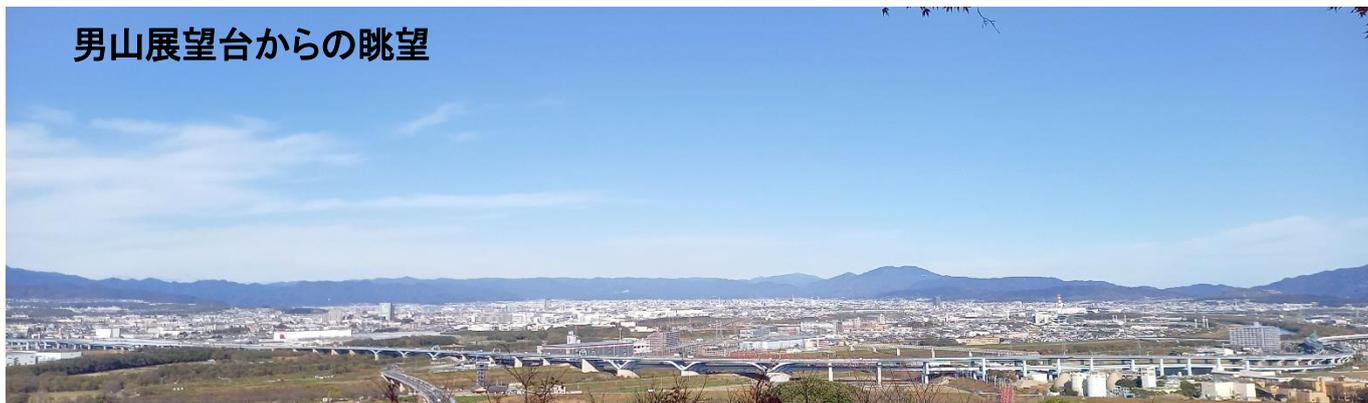


## 活動拠点の取組み

### 男山展望台

京阪電車 石清水八幡宮駅から男山ケーブルに乗り山頂駅から足を延ばせば標高110m男山山上展望台の一角に八幡たけくらぶの拠点「展望の館」があります。展望台からは眼下に木津川 宇治川 桂川の三川の流れが広がり視線を上げれば京都タワー、遠くには愛宕山、比叡山、京都東山、城陽の山々が望めます。

### 男山展望台からの眺望



### 展望の館

展望の館は 大寅蒲鉾小谷会長のご厚意によりたけくらぶの拠点となっています。約93㎡の建屋の内部で土日・祝日を中心に開館し竹細工販売、竹細工体験、緑の募金活動をしながら竹林保全活動をしている八幡たけくらぶの拠点としてPRも行っています。年始・桜・紅葉の時期は連続して開館し多くの来訪者をお迎えします。

### 八幡たけくらぶ拠点



会員作竹細工

### 手製の紙袋



家庭にある紙袋を作り直し竹細工の持ち帰り用に再生利用、竹ストローも作製し環境保全を推奨

## 活動拠点の取り組み

### 展望台整備

展望台整備は朝のミーティングから  
朝一番に当日のフィールドリーダーから作業内容の説明を受けて各自が希望する作業につきます。

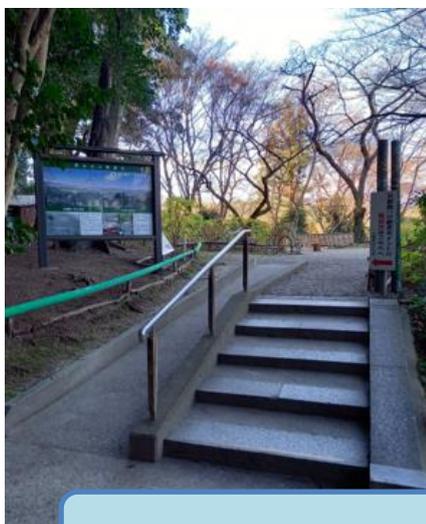


安全第一！  
コロナ対策も  
万全に！



斜面部分の階段作り

狭い場所も時間をかけて花畑に



展望台への通路は常に清掃



## 活動拠点の取り組み

### 展望台整備



タケノコ採取は大事な竹林整備



### 草刈の技は唯一無二



草刈が終わった展望台斜面

## 活動拠点の取り組み

### 展望台整備 ベンチの設置(2021年8月)

展望台を訪れた方が、京都から城陽にかけての景色を楽しんでいただける様ベンチを6脚設置しました。  
廃棄寸前で骨組みのみとなったベンチを譲り受け 解体→磨き→組み立て→板材を取り付けて仕上げました。板材は耐久性を維持するため丹念に塗装を施しました。



## 活動拠点の取り組み

### 展望台整備 排水溝設営(2021年9月)

屋外竹細作業場へ雨水流れこみ防止用の排水溝を設置しました。



① 赤外線レベルで勾配角度を決める



② U字溝を埋める



③ 排水管の設置



強い雨が降ってきても足元を気にせず作業ができる様になりました



④ グレーチングを置く

## 活動拠点の取り組み

### 倉庫の整備

日々使用する竹林整備道具は 誰でもすぐに使用できることを目的に整理整頓を推進しています。



倉庫内部



倉庫内部



チェーンソー機器の横に  
チェーンソー防護服を 配置



**必須！**  
**「使用後は元の位置に」**

## 活動拠点の取り組み

### 竹細工体験

タケトンボ、風車等、竹細工をしてみたいと思われたらすぐに竹細工体験ができます。



竹細工体験の費用は販売価格と「同額」

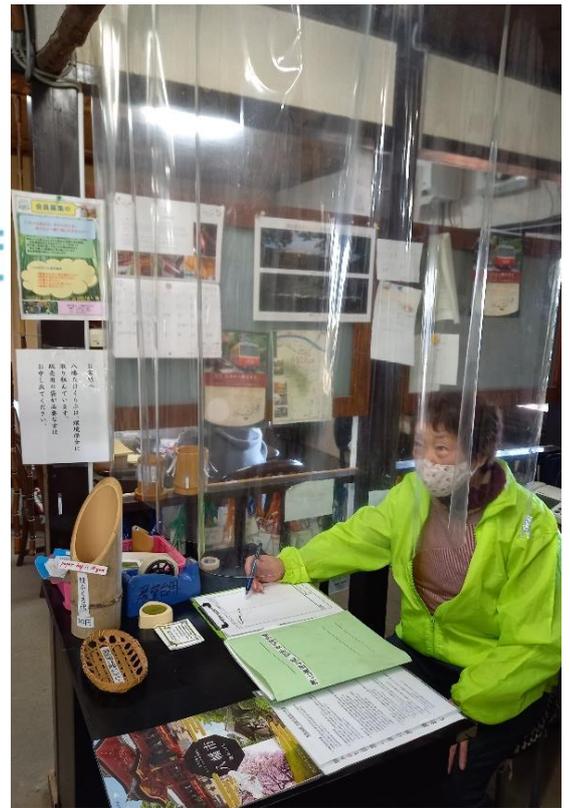
参加者には 体験の実感と達成感を

お持ち帰りいただいています

## 活動拠点の取り組み

### 新型コロナ対策

2020年新型コロナウイルス感染症対策中小企業者等支援補助金の交付を受け消毒用アルコール、ナイロン手袋、除菌シート、消毒が容易な木製椅子の購入、仕切りカーテン等をしつらえ来訪者、そして会員相互の感染予防の充実を図りました。



### 緑の募金活動

緑の募金は、荒廃した森林を蘇らせることを目的に昭和25年「緑の羽根募金」からスタートしました。展望台の一角に緑の募金箱を設置し 訪れた方々に緑の募金を呼びかけています。季節毎に、皇帝ダリアの茎、もみじの幼木、フウセンカズラ・菜の花の種等を置き持ち帰っていただいています。募金分は毎年、京都モデルフォレスト協会緑の募金宛てに振り込みます。



### 振替払込請求書兼受領証

口座番号	009207
加入者番号	239523
加入者名	京都モデルフォレスト協会緑の募金
金額	17226
記載事項を訂正する場合は、その箇所を訂正印を押してください。	
振替先	京都府八幡市八幡平ノ山85
NPO法人	八幡たけくらぶ
理人	竹下修史様
領人	
料金	0円
目附印	04-04-04
備考	八幡橋本郵便局 (44276) N94160001
免除除	

この受領証は、大切に保管してください。

## 活動拠点の取り組み

### 四季の彩り

雑木やツタで覆われていた空き地に手を入れ続けることで季節を伝える花々の庭園ができました。

サクラ



タイタンビカス  
(花の径15~25㌢になります)



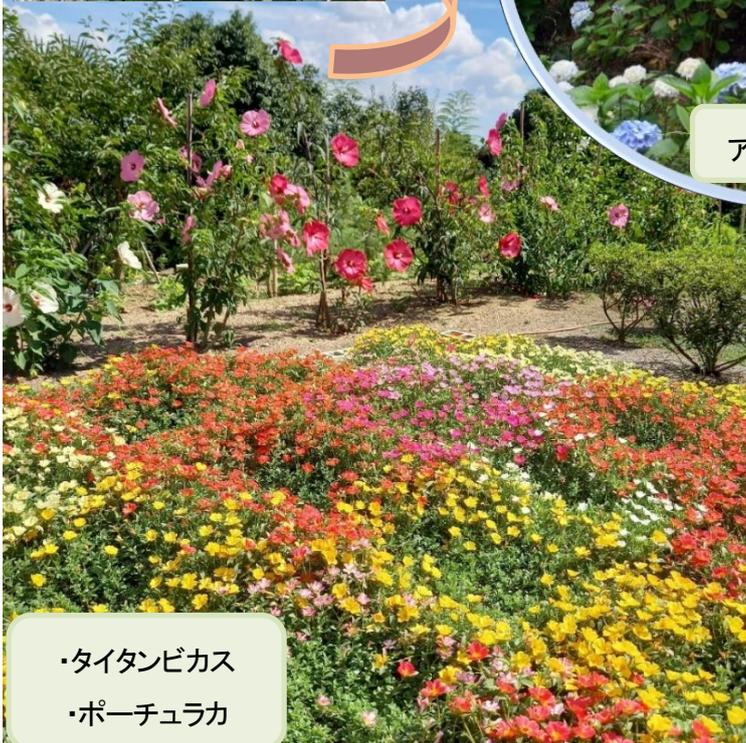
フリージア



カサブランカ



アジサイ



・タイタンビカス  
・ポーチュラカ

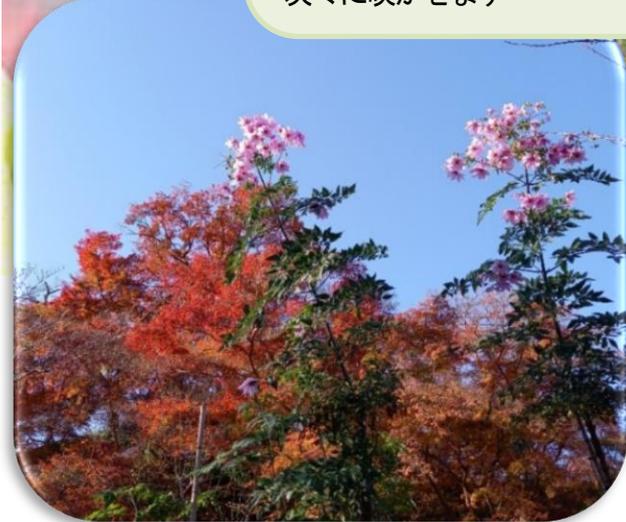
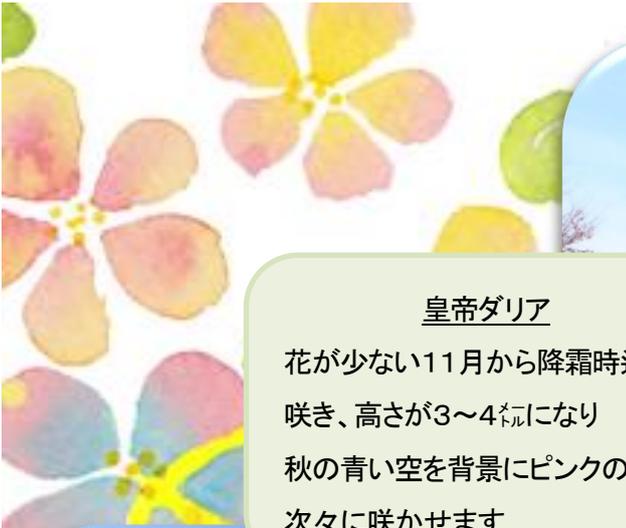


タチアオイ

## 活動拠点の取り組み

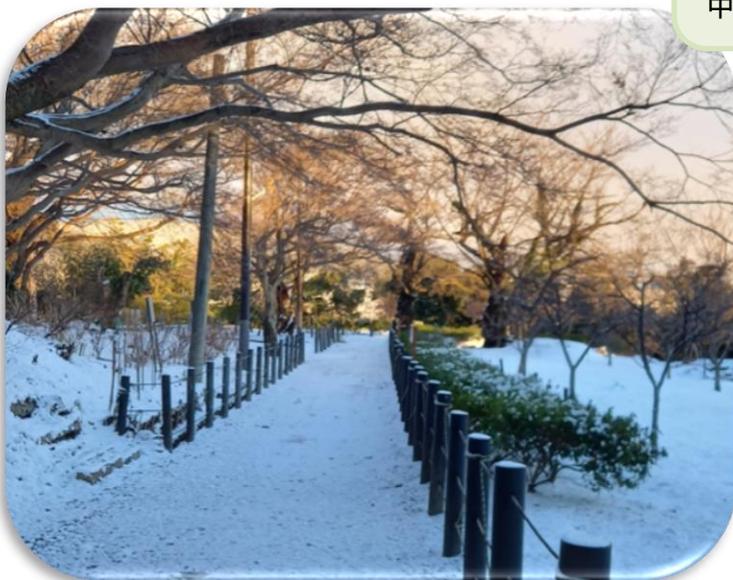
### 皇帝ダリア

花が少ない11月から降霜時迄  
咲き、高さが3~4丈になり  
秋の青い空を背景にピンクの花を  
次々に咲かせます



### 竹あかり2021年師走

竹にデザインした穴をあけ  
中から LED ライトで照らします



朝日が凍った枝を明るくしました



雨上りの朝、紅葉の絨毯が敷かれました

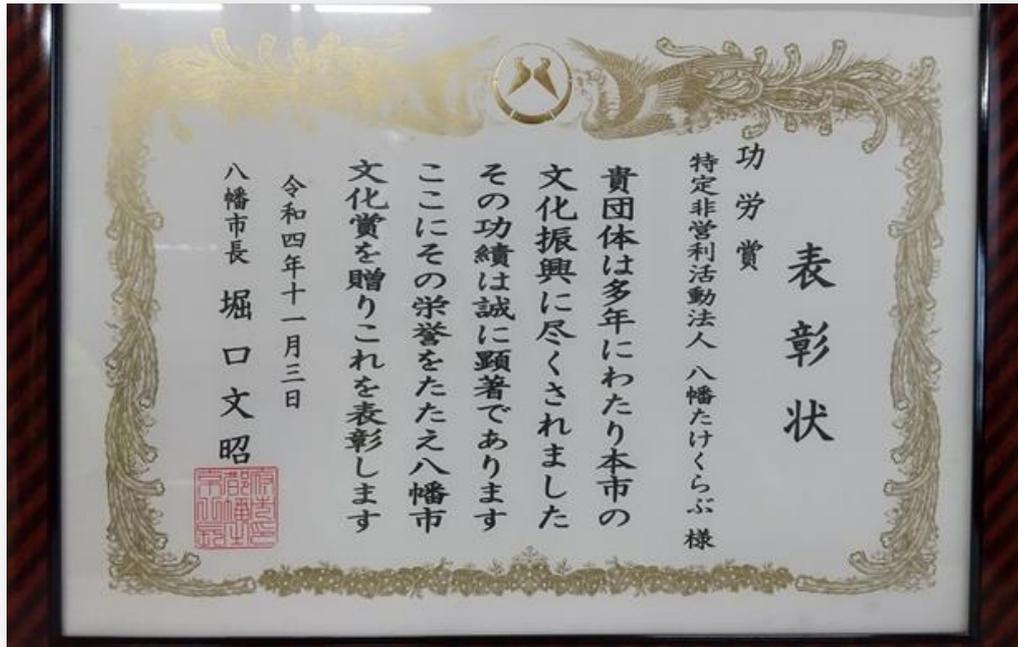


## 表彰・受賞

2022年11月3日八幡市より「八幡市文化賞功労賞」の表彰を受けました。

永年にわたり自然文化を通じて文化の振興・発展に尽くしてきた私達の団体の功績に対し「八幡市文化協会」より推薦されて今回の受賞に至りました。

### 表彰状と記念品



# 一般公募活動

## 一般公募・竹林整備体験

【竹林整備、筍掘りの体験】

(1) 2019年4月13日(土) 参加者46名(一般31名、たけくらぶ15名) <場所:展望台F>



(2) 2022年4月23日(土) 参加者43名(一般30名、たけくらぶ13名) <場所:展望台F>



## 一般公募活動

### 一般公募・若竹飾り体験教室

【青竹を利用して正月用若竹飾りの手作り体験】

(1) 2019年12月22日(日) 参加者63名(一般36名、たけくらぶ27名)

〈場所:八幡市立市民交流センター〉



若竹飾りのミニ版です

(2) 2020年12月20日(日) 参加者26名(一般公募せず、たけくらぶのみで製作) 〈場所:展望台〉

(3) 2021年12月19日(日) 参加者35名(一般公募せず、たけくらぶのみで製作) 〈場所:展望台〉

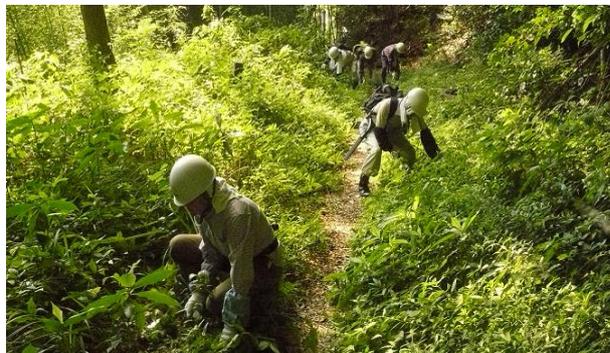
(4) 2022年12月25日(日) 参加者42名(一般公募せず、たけくらぶのみで製作) 〈場所:展望台〉

## 一般公募活動

### 一般公募・散策路の整備

【里山再生協議会主催 男山散策路3ルート整備】

- (1) 2019年8月3日(土) 参加者17名 (7月14日が雨天中止のため、たけくらぶのみで活動)  
大変暑い中、道を覆う草刈り他を行いました。



- (2) 2019年11月17日(日) 参加者26名(一般3名、とんかち8名、たけくらぶ15名)  
(3) 2020年8月9日(日) 参加者26名(とんかち7名、たけくらぶ19名)  
(4) 2020年11月8日(日) 参加者24名(一般2名、とんかち7名、たけくらぶ15名)

台風痕(2018年)がまだ残る中、雨後で足場が悪い中、道の整備や草刈り他を行いました。



- (5) 2021年8月8日(日) 参加者23名(とんかち6名、たけくらぶ17名)  
(6) 2022年6月26日(日) 参加者35名(一般3名、とんかち9名、たけくらぶ23名)

草が覆い始めたところで、草刈り他を行いました。



- (7) 2022年11月6日(日) 参加者31名(一般3名、とんかち6名、たけくらぶ22名)

# 竹細工体験教室

年度	月	活動名	作品	場所	参加数
2019	5	「スマイルゲート八幡」	カスタネット(5月6日) かざぐるま(7月6日)	展望の館	12名 17名
		「長岡京市・新田保育所」	カスタネット 	展望の館	47名
	7	「京都市立乾隆小学校」(上京区)	ぶんぶんゴマ ひねり竹とんぼ やじろべえ 	乾隆小	27名
		「びわこ・水辺の匠」(7/20~7/21)	ガリガリとんぼ・かざぐるま ブンブンぜみ・竹とんぼ	アクア琵琶	214名
	8	「城陽市・コミュニティセンター」	やじろべえ・かざぐるま	今池コミセン 東部コミセン	33名 19名
		「竹園児童センター」	ガリガリとんぼ・竹とんぼ ブンブンぜみ	センター	11名
		「大阪天王寺ボーイスカウト」	ブンブンぜみ	展望の館	18名
	9	「若葉サポート」	ガリガリとんぼ・竹とんぼ やじろべえ・ブンブンごま ゲロゲロかえる	展望の館	22名
	10	山城JC「竹とんぼ飛ばして 世界一に挑戦」	竹とんぼ 	石清水・頓宮	160名
		「八幡市民文化祭」	ブンブンごま・カスタネット	文化センター	93名
	11	「京都府民交流フェスタ」	ガリガリとんぼ・かざぐるま ブンブンぜみ・竹とんぼ	京都府立植物園	134名
		「山城未来っ子博覧会」	ガリガリとんぼ・竹とんぼ ブンブンぜみ 	山城総合文化 センター	82名

## 竹細工体験教室

年度	月	活動名	作品	場所	参加数
2019	12	「八幡市こども文化祭」	ガリガリとんぼ・カタカタ	文化センター	70名
		「京都環境フェスティバル・2019」	ガリガリとんぼ・カタカタ カスタネット	京都パルスプラザ	121名
					
2020	1	「京都市立二条城北小学校」	ガリガリとんぼ・ブンブンぜみ	二条城北小	52名
	2	「島本カブスカウト」	ブンブンぜみ・やじろべえ ゲロゲロがえる	展望の館	10名
	11	「さくらであい館」	ブンブンぜみ・竹トンボ	さくらであい館	17名
		「岡崎体育さん」竹細工を体験 12/25KBS京都でTV放映	カスタネット・他2件	展望の館	2名
2021	7	「城陽市・今池コミュニティセンター」	カスタネット・竹トンボ	今池コミセン	8名
	10	「さくらであい館」	ブンブンぜみ・竹トンボ	さくらであい館	15名
	11	「京都モデルフォレスト森づくり」	ガリガリとんぼ・ブンブンぜみ	石清水研修センター	18名
		「霊友会」	竹灯笼・他	展望の館	23名
	12	「八幡こども会議」	竹ストロー(ブラシ付き)	展望の館	16名
2022	8	「ガールスカウト京都第50団」	かざぐるま	展望の館	11名
	10	「ハチ・フェスタ」	ガリガリとんぼ	さざなみ広場	41名
		「洛西地区カブラリー」	ブンブンぜみ	展望の館	65名
	11	「八幡市民文化祭」	ガリガリとんぼ・カタカタ ブンブンぜみ	文化センター	153名
					
	12	「八幡こども文化祭」	ウグイス笛・竹トンボ	文化センター	15名
2023	1	「京都市立住吉小学校」(伏見区)	竹トンボ・ブンブンごま	小学校	33名
	3	「竹あかりワークショップ」	竹あかり	松花堂美術館	25名
		「島本カブスカウト」	ブンブンぜみ・他	展望の館	14名



### 自然エネルギー利用

鎮守の森に太陽光エネルギーで灯りをともすという日立・京大ラボの構想の下、展望台庭園のフェンスに竹で細工した灯りを取り付け灯しました。(2019年11月16日)



### 祈りのともしび

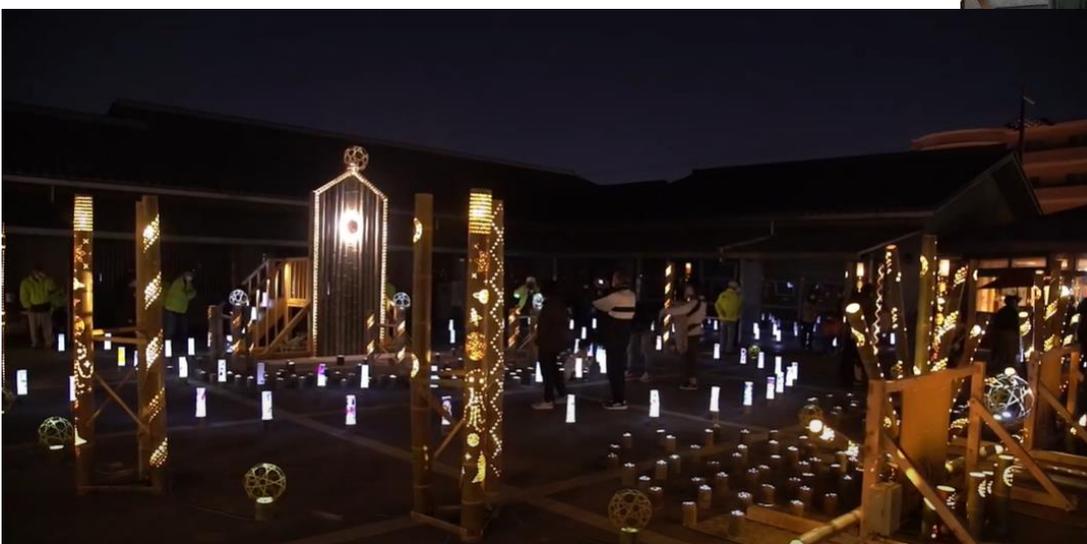
2019年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症に世界中が震撼しました。その直後、新型コロナウイルスに負けるものかと作製し展望台に飾った竹あかりです。今思うと良くこの時期に造ったものだと冷や汗をかいています。「コロナニカツ」と竹に彫りました。(2020年3月11日)



## 竹あかりイベント

### 竹あかりのタベ

ロケットに乗って宇宙空間へ飛び立ち、ロケットの窓から眺めた宇宙を想定して作り上げました。八幡在住の写真家「澄 毅氏」のデザインで松花堂美術館前の交流広場に設置しましたが、地面が土ではないため支柱を建てられず、竹あかりを立てるのに苦労しました。八幡市内の幼稚園児、保育園児も絵を描いて協力してくれて、終了後のアンケート調査では、「京都・やわた時空さんぽ」の幾多ある事業の中で竹あかりの展示が最も評判が良く、「とても綺麗だった」「幻想的でした」「来年も是非」とのお声を頂きました。(2021年11月21日)



## 竹あかりイベント

### 中学生交流会

八幡市と愛媛県八幡浜市の中学生交流会が催され、竹あかり作りのお手伝いをしました。ほとんどの中学生は竹あかり作りが初めての経験であり、緊張しながらも楽しんでくれました。交流会で最も興味を持ったイベントであったそうです。

(2022年8月18日)



### 八望祭

男山八望での夏祭りに竹あかりを展示して、お祭りを盛り上げました。小雨の中でしたが、盆踊りのステージ上で雨の中でも踊り続ける人が数人いて、日本人の盆踊りに対する情熱を感じました。(2022年8月20日)



### みんなの想火

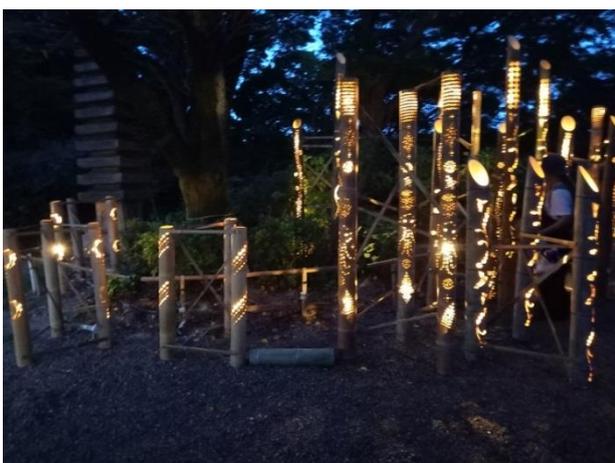
2009年にバンコクで世界竹会議が開催され、9月18日を「世界竹の日」と宣言しました。その世界竹の日因んで「みんなの想火」と称して展望台にて2週間ほど夕方6時～8時までタイマーを使っての竹あかり展示を行いました。

(2022年9月18日～9月30日)

### あかりの日

毎年10月21日はあかりの日で、今年3年目になります。さくら近隣公園にて今年も展示しました。

(2022年10月21日)



### 八幡市民文化祭

3年ぶりに開催された八幡市民文化祭でも竹あかりを展示しましたが、昼間であった事から外の光が強く、消灯して竹あかりを展示しました。広く市民の方に認識していただきました。(2022年11月19、20日)



## 竹あかりイベント

### 竹あかりワークショップ

2023年3月4日：松花堂で竹あかりワークショップを開きました。子供を対象にと思っていたところ応募されたのは全員大人でした。竹あかりには大変興味がある様で、作製した方々は大満足で自分が作ったものを大事そうに持って帰られました。



何をするにも準備が大切



美しい見本を展示



作業風景

### 八幡市商工会議所主催 第一回やわたミライト(竹あかり展示)

たけくらぶは竹あかりの作製展示を引き受けました。23年度竹あかりのフィナーレです。(2023年3月18日・19日)

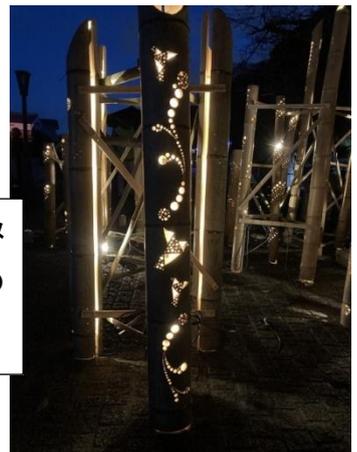


LED ライト

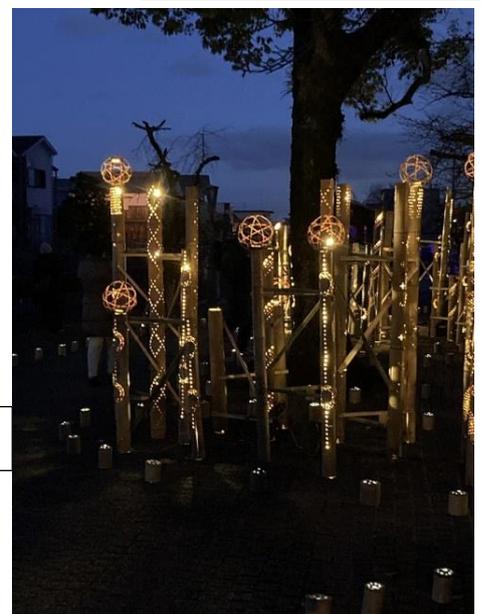


出番を待つ竹あかり  
LED ライトを中に入  
れれば完成

三川合流と鳩をイメ  
ージした女性陣の  
力作です。



有終の美を飾りました



# クリーン活動

## ステゴサウルス骨格標本を作製

自然環境保全の大切さを理解してもらうため、子供たちが拾ってきた空き缶をサウルス周囲に山積みしました。サウルスの骨格標本は我がたけくらぶ会員の竹細工技術の粋を集めて1年半かけて竹くぎを含め全て竹で作製しました。環境保全をテーマとする三世代交流イベントに出展(2023年3月21日)



体躯の中心となる  
椎体作り



肋骨作り  
カーブの度合いを  
揃えるのが難しい



骨盤と大腿骨との  
角度合わせ  
どれくらいの角度  
にするか



最尾端のピン作り



全体を支える重要な部分



初めての日光浴



2023年3月21日



堂々のお披露目 周りの空き缶の山は隕石を模したもの

# 会員の親睦

たけくらぶは折に触れて会員の親睦会が開催されます。

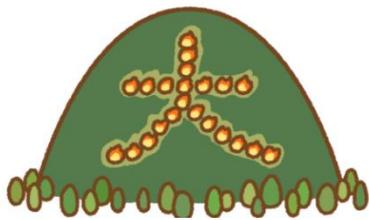
観桜会 五山送り火鑑賞会 紅葉鑑賞会、一泊研修旅行そして新年会です。しかし新型コロナウイルスの感染の広がりから2020年の新年会以降は一堂に会しての親睦会は中止しています。

**観桜会** 2019年4月4日 会場 展望の館 38名参加



**五山送り火鑑賞会** 2019年8月16日 会場 展望の館 32名参加

20時の点火の前にまずビールで乾杯！ 夏を乗り切りましょう！



## 会員の親睦

紅葉鑑賞会 2019年12月9日 会場 展望の館 29名参加



落ち葉を活用し  
写真撮影スポットを  
つくりました



## 会員の親睦

たけくらぶ研修旅行は懇親を深めると共に各地に於いての竹細工や竹の利用法の見聞を深める機会となっており2006年～2019年まで継続してきました。しかし新型コロナ感染拡大で中断しています。

### 八幡たけくらぶ 一泊研修旅行状況

年度	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
日程	8/31～9/1	9/3～9/4	9/1～9/2	9/28～29	9/27～28	9/26～27	9/24～25
宿泊先	芦原温泉	夕日が浦	伊勢・鳥羽	阿波温泉	羽合温泉	尾道・竹原	下呂温泉
研修先	関電・越前竹人形の里	小浜竹炭生産組合	明和町ありんこ	うだつ「時代や」	鳥取県庁倉吉関金庁舎	竹野駅	岐阜竹炭救援隊
参加人員	25	24	26	21	19	21	31

年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
日程	9/24～25	9/24～25	9/28～29	9/28～29	9/26～27	9/25～26	9/10～11
宿泊先	和歌山中津温泉	輪島・能登	倉敷・山陽	下呂温泉	淡路島海上ホテル	龍野・赤とんぼ荘	浜松H鞠水亭
研修先	黒竹生産組合・民芸品日高町	輪島朝市千里浜	津山民芸社岡山城	妻籠関ヶ原資料館	杉本商店	梅玉旅館かたしぼ竹	アサヒグリーン楽器博物館祭り会館
参加人員	28	36	38	36	35	34	26

**研修旅行** 2019年9月10日、11日 浜松方面 26名参加

名古屋港区の「竹製品卸し会社アサヒグリーン」に訪問。73歳(当時)の社長自らの会社説明を受けました。



## 会員の親睦



浜松まつり会館

祭りで実際に使用した大凧の展示を  
観覧しました  
帰京後即 凧の竹細工製品が並びました

### 宿泊 浜松

ホテル鞠水亭 (きくすいてい)



新年会 2020年1月19日 会場 守口ホテルアゴーラ 57名参加





## 会員紹介

■2019年度から2022年度にかけて入会された新会員と入会後の感想を紹介を致します。

2019年4月 大川 昇（枚方市）

入会後は、竹林整備に可能な範囲で参加しています。竹林の中で竹の緑、季節を感じながら3時間程度過ごすことが気持ちいいです。放置された枯れ竹、倒れた竹で無茶苦茶な状態の竹林が竹林整備をすることできれいな状態に変わっていくさまが、なんとも達成感があります。2年目から始めた竹細工も少しずつ慣れて来て作品が作れるようになりました。竹を割り、剥ぐときの音、香りが好きです。これからも時間・体力の許す限りたけくらぶの活動を楽しまたいと思います。

2019年4月 釘宮 和子（寝屋川市）

会員になってから竹林を見る目が変わりました。整備されてきれい！とか、筍がもったいない～ほったらかしにすると危ないねとか言ってしまいます。簡単メンマのレシピを調べて、退治した大きな筍で作ってみました。美味しかったので調子にのって友人や子供に配りました。邪魔をしない様に楽しませて頂きますのでよろしくお願いいたします。

2019年4月 後藤 純一（八幡市）

2019年8月 田中 良和・田中 富佐子（東大阪市）

2019年9月 西村 隆（京都市）

公務員人生から自由人へ。65歳を区切りに、新たな出会いを求め楽しく文化的に暮らすことに。ピアノ、ゴルフ、園芸、手料理に加え、質感に魅力を感じる竹細工を始めようと決心。「石清水の山頂でしたはるで」と聞いて直行。即、入会させてもらった。素敵な先輩方に知識や技を教えてもらって、少しずつ展望の館に行灯や一輪挿しを出品させてもらっている。頑張った竹細工を使ってもらって感謝です。

2019年9月 服部 宏子（京都市）

2019年10月 角田 邦彦（大阪市）

2019年12月 塩田 安郎（大阪市） 高橋 省三（八幡市） 山下 太（吹田市）

2020年4月 野川 勝司（京田辺市）

竹林整備と竹細工を習いたくて入会しましたが、コロナ禍で活動自粛。ユーチューブを見ながら自宅で竹かご編みに挑戦中です。諸先輩方のアドバイスを頂き参加しています。これからもよろしくお願いいたします。

2020年4月 平岩 潔（交野市）

2020年6月 安部 幸（枚方市） 坂本 寿美（枚方市） 田畑 淳子（枚方市）

## 会員紹介

2021年 1月 前中 由希恵（八幡市）

私は【八幡市をあかりの町にしたい！】という目標を持っています。

エジソンが世界中の夜を明るくするきっかけとなった八幡市の竹。竹が増えすぎて里山がピンチを迎えている。地元の人でも知らないような、竹害問題とその解決に取り組んでいる八幡たけくらぶさんとの出会いは必然だったと感じています。

【竹にあかりを入れて光らせる演出で、竹林整備の大切さを知ってもらう事は、八幡市民に笑顔を増やすこと】竹を1本伐るたびにみんなが笑顔になるとか良くないですか？

あかりが好きな、竹の事を全く知らない若者?!を快く迎え入れてくれた事に感謝します。

2021年 4月 近藤 輝男（枚方市）

八幡たけくらぶは、活動メニューと日数が多くて参加出来るよう調整するのが悩みです。安全作業の徹底、道具の管理、役員さん各位の親切な対応に、心地よく参加させて頂いて居ります。竹の有効利用を考える機会に恵まれる事を望んで止みません。

2021年 4月 上田 達夫（交野市） 亀崎 邦彦（八幡市） 徳重 文良（交野市）

徳丸 達也（京都市） 西村 雅人（八幡市） 西山 龍夫（八幡市）

2021年 6月 水口 恵介（札幌市）

2021年 9月 西村 和記（宇治市）

2021年11月 厨子 靖子（枚方市）

2022年 1月 大谷 剛正・大谷 真由（大阪市）

【大谷 剛正】

竹林整備や若竹作り、筍掘りや竹細工等、日頃体験できないことにチャレンジし、いつも新鮮で楽しいです。会員の皆様も大変親切に色んなことを教えていただけるので毎回、参加するのがとても楽しいです。色んな体験を経験し自分たちもたけくらぶに貢献できるように頑張っ参りたいと思います。

【大谷 真由】

会員の皆様にはいつも良くして頂いてます。活動に参加する度に竹の魅力を教わり、どんどん興味を持ちました。今では竹に触れるだけで楽しいです。仕事で活動に参加出来ない日がほとんどですが、休みの日には必ず参加したいと思える「八幡たけくらぶ」。今、思うことは入会に誘って頂いたことをとても感謝しています。

2022年 1月 本多 敦史（八幡市）

2022年 4月 荒木 清（交野市） 原 昌良（八幡市）

## 会員紹介

2022年6月 北岡 友長（八幡市）

自然歩道ハイキング(東海自然歩道を歩く)が趣味でした。近年は八幡市八幡宮辺りのハイキング道を中心にトレーニングを兼ねて居りましたが、竹やぶが一部荒廃した様子が気になり、「美しい竹やぶハイキング道」に成らないか?と思う気持ちが強まり、昨年と今年ハイキング道の清掃活動に参加致しました。

翌日、竹くらぶの竹林整備活動に参加して、体力には問題ないと感じたので入会致しました。将来は男山ハイキング道がメジャーに成るよう尽力していきたいと思います。また、少しずつ竹くらぶの各サークルの活動を見聞きして興味がわかれば参加していきたいと思います！

2022年 6月 中村 仁美（枚方市） 林 重行（八幡市）

2022年 7月 佐藤 幸見（八幡市）

新しい土地で暮らし始めて生活も落ち着いた頃、この地域だからこその活動は何かないかしらと調べてみました。もともと伝統工芸に興味のあった私の目に飛び込んできたのは、「八幡たけくらぶ」すぐに入会させていただきました。実際に参加させていただくと、実に様々な活動を精力的に取り組まれていることにとっても驚きました。

竹細工教室では干支の置物、竹ひごづくり教室では小さな竹籠が、皆さんに助けていただき完成しました。どちらも不恰好な出来ですが、とても嬉しいです。

新参者を温かく迎えていただき、感謝しております。

2022年 8月 荒木 江身（大阪市） 仁位 あやの（大阪市）

2022年10月 前納 長武（高槻市）

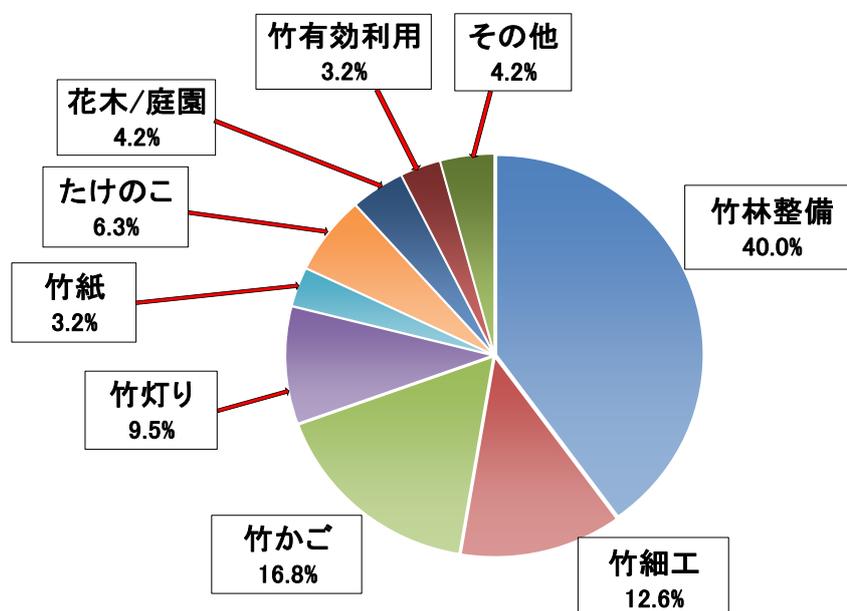
2022年11月 浅井 秀幸（柏原市） 松元 浩司（柏原市） 岡本 孝（枚方市）

楽満 勇（堺市） 殿村 猛（大阪市） 阪本 靖宏（大阪市）

宇座 清（和泉市） 岡山 嘉夫（大阪市） 中川 辰三（大阪市）

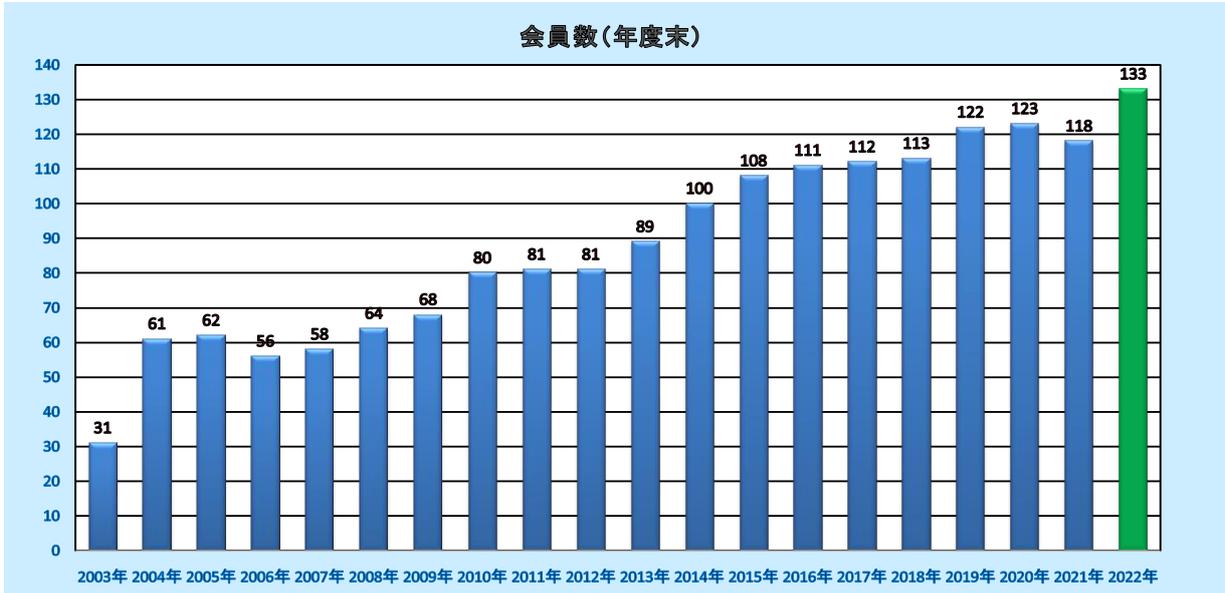
2023年1月 安東 隆志（八幡市） 奥村 友香・奥村陽也（八幡市）

### ■入会動機と参加活動内容

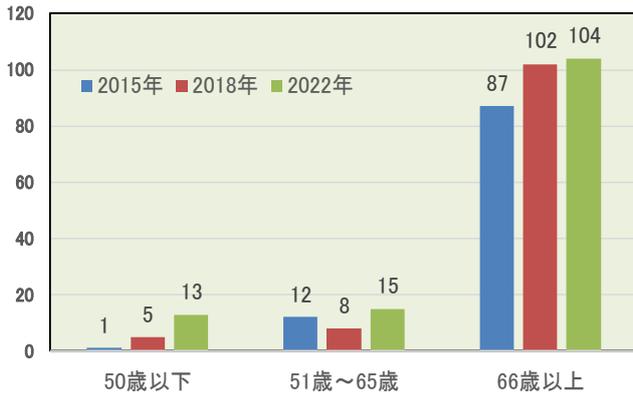


# 会員数/活動回数 of 動向

## ■会員数(年度別)

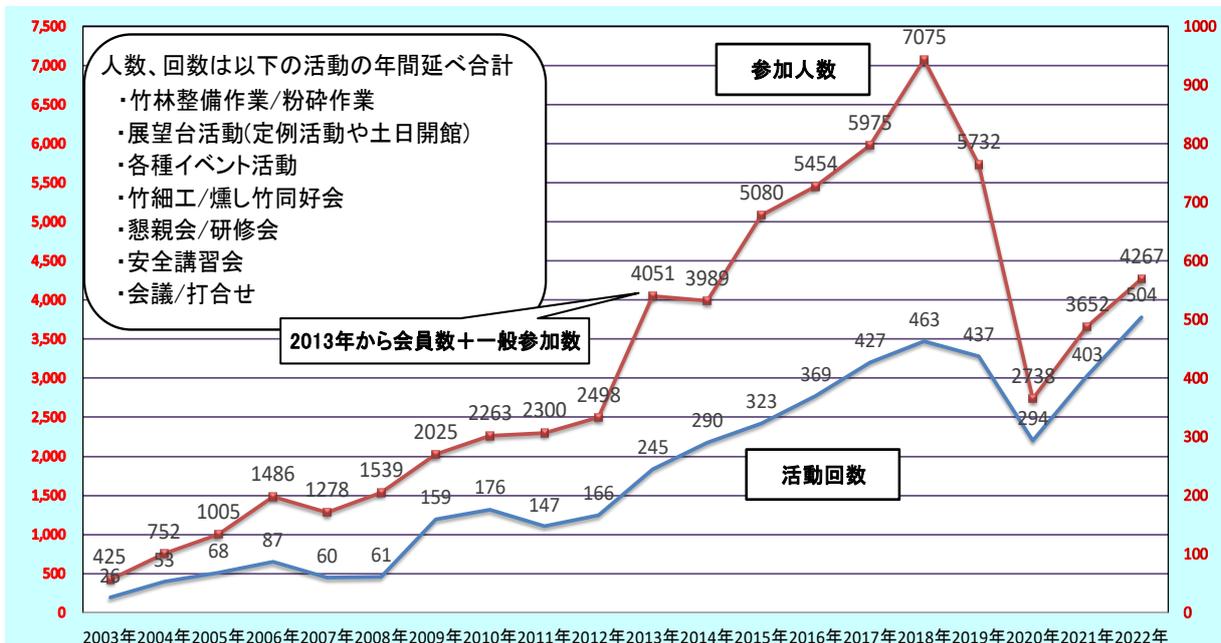


## ・年代別傾向 (2015年~2022年)



- ① 66歳以上  
 会員の高齢化が進んでいるが、この年代は入退会の変動は少ない。永年、会員として頑張っている。
- ② 51歳~65歳、50歳以下  
 現役世代の入会や、若い世代でもたけらぶの活動に興味を持つ方が増えてきている。コロナ禍における時間有効利用のため、社会活動参加意識が上がってきている。

## ■活動回数・会員参加数(年度別)



# マスメディア・報道

京 都府 楽 庁

2019年(令和元年)5月1日 水 曜 日



### タケノコ掘り 達成感

府警 八幡で少年サポート事業  
非行などさまざまな市八幡の奥山の竹林で問題を抱えていた少年 行われた。府内の小中を対象にしたタケノコ 学生7人家族、ボラを対象にしたタケノコ 掘りがこのほど、八幡ンティアが参加し



アドバイスを受けながらタケノコを掘り出す少年(八幡市八幡)

力を合わせてタケノコを掘り出した。府警少年課少年サポートセンターの支援事業。周囲と協力しながら取り組み、自己肯定感や達成感を得ることで立ち直りのきっかけにしようが狙い。奥山の展望台周辺の竹林を整備・管理しているNPO法人「八幡竹くらぶ」、学生ボランティア団体「KYO-SOLIDER」が協力し、2年前から八幡竹くらぶのメンバーが掘り方を説明した後、グループに分かれてタケノコを探し

た。タケノコの周囲を丁寧に掘り、先の長いくわで刺してこのようにして掘り出した。少年らは「面白い」「難しい」と言いながら、わに力を込め、うまく掘り出せることが嬉しかったと喜んでいました。(稲垣真)

2019年(令和元年)9月3日 火 曜 日

京 都府 楽 庁



開花し茶色に色したハチクが中央部はまだ開花していない緑の竹も見える八幡市津北小路

およそ120年周期で花が咲くとされる竹の一種「ハチク」が、全国各地で一斉開花の兆しを見せつつある。研究者は過去の文献から2020年代後半に次の開花のピークを迎えると予測しており、京都府内でも開花するハチクが増え始めた。花をつけた竹は一斉に枯れるため、景観を一変させたり、土壌の流出を防ぐ力が弱まったりする懸念も指摘されている。

## ハチク 120年周期の開花

### 府内でも確認 ピーク兆し



ハチクの花

### 集団で枯れ 土壌流出懸念も

2013年に見つかったほか、京田辺市、精華町、京丹波町などで「はら」と開花した竹が見つかっている。状態はいい。

八幡市津北小路の竹は今年6月下旬、ハチクが開花しているのを竹林整備に取り組み地元NPO法人「八幡竹くらぶ」のメンバーが見つけた。竹の半分近くは茶色くなり、かなりの土壌流出の恐れがある。竹は枯れると、土壌の流出を防ぐ力が弱まったりする懸念も指摘されている。

京都大学大学院で竹の生態を研究する小林慧人さん(26)によると、兵庫県の加西市では1000年近く開花が確認され、愛知県新城市や高知県香川郡でも開花が目立ち始めており、府内でも、長岡京市でハチクは、モウソウチクやマダケとともに三大有用竹とも呼ばれる。150年に一度花を咲かせると考えられ、前回は明治期の1908年前後に開化したとの説がある。花を咲かせた後は、同じ地味を持つ竹が一斉に枯れることが知られている。

京都大学大学院で竹の生態を研究する小林慧人さん(26)によると、兵庫県の加西市では1000年近く開花が確認され、愛知県新城市や高知県香川郡でも開花が目立ち始めており、府内でも、長岡京市でハチクは、モウソウチクやマダケとともに三大有用竹とも呼ばれる。150年に一度花を咲かせると考えられ、前回は明治期の1908年前後に開化したとの説がある。花を咲かせた後は、同じ地味を持つ竹が一斉に枯れることが知られている。

竹文化振興協会(京都市左京区)の渡邊政俊専員(66)によると、マダケが一斉開花した1970年代には、竹産業界を中心に「ハチクが起きた」という。開花した竹の量は減って、生きている竹の量は減る。開花する竹は枯れるので、景観を悪くしたり、斜面の土を支える力が弱まったりする可能性がある。指摘。今後の開花の推移に注目している。ただ、ハチクは枯れても地味の花が、見た目に伝えているという。

京 都府 楽 庁

2019年(令和元年)10月21日 月 曜 日



竹とんぼを一緒に飛ばす参加者たち(八幡市八幡・石清水八幡宮頓宮)

### 竹とんぼ一斉に飛ばす 八幡 地域への愛着持つ

竹とんぼを同時に飛ばした人数で世界記録を目指し、20日、八幡市八幡・石清水八幡宮頓宮であった。集まったのは150人であり、放置竹林をの課題も抱える竹への関心の迫る中、自作の竹とんぼを飛ばす楽しみを

持ったおもちゃや、羽に好きな色を塗り、自作の竹とんぼを飛ばす楽しみを。NPO法人「八幡竹くらぶ」が協力し、竹とんぼ作りのほかに竹とんぼ飛ばし体験も行った。参加者たちは竹とんぼの楽しさを味わった。

竹とんぼを飛ばす楽しみを。NPO法人「八幡竹くらぶ」が協力し、竹とんぼ作りのほかに竹とんぼ飛ばし体験も行った。参加者たちは竹とんぼの楽しさを味わった。

竹とんぼを飛ばす楽しみを。NPO法人「八幡竹くらぶ」が協力し、竹とんぼ作りのほかに竹とんぼ飛ばし体験も行った。参加者たちは竹とんぼの楽しさを味わった。

# 皇帝ダリア 眺望と共演

八幡・男山

大輪の花が目を引く皇帝ダリア。ピンクの花が紅葉や眺望と共演を繰り広げている

(八幡市八幡男山展望台近く)



直径30センチほどの花をつけた皇帝ダリア。大きさに驚いて「何の花ですか」と尋ねる人もいるという

八幡市八幡の男山展望台近くで、ダリアの一種「皇帝ダリア」約80本が満開を迎え、訪れる人の目を引いている。

竹林整備などに取り組む地元NPO法人「八幡たけくらぶ」のメンバーたちが、展望台東側の斜面などに植

えた。3年前から栽培を始め、花が少ないこの時期に石清水八幡宮の参拝者を楽しませようと今年は一気に数を増やした。

た皇帝ダリアが直径30センチほどの大輪の花をあちこちで咲かせ、紅葉や高台の眺望と共演している。見頃は12月中旬ごろまで続くという。

くらぶ理事の小林喜美代さん(68)は「来て良かったなと思つてほしい。足だけでなく心も留めてもらえれば」と話していた。

(高橋道長)

2021年4月号八幡市広報紙

## コロナ収束 祈りのともしび

石清水八幡宮社殿などをライトアップする「祈りのともしび〜和の心〜」が3月12日〜14日の3日間、行われました。

このイベントは、アフター・コロナでの外国人観光客の誘客を見据え、夜間における付加価値の高い観光造成を目的に、観光庁の支援を受けて一般社団法人京都山城地域振興社(通称:お茶の京都DMO)が実施しました。

石清水八幡宮参道ケーブルでは、JALグループの客室乗務員が車内でアナウンス。

### オブジェ前で巫女が舞う

来場者たちは、旅行気分を味わいながら山上に上りました。

石清水八幡宮の御本殿では、京都芸術大学の学生らが新型コロナウイルス収束への願いを込めて制作したオブジェ「祈りのともしび」が設置され、その前で巫女が舞を披露。

ほかにも、参道が行灯で照らされたり、NPO法人八幡たけくらぶが制作した竹灯ろうで男山展望台がライトアップされたりし、境内など一帯が荘厳な雰囲気になりました。



オブジェの前で舞を披露する巫女

## まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見、秘書広報課までお寄せください。

地域

## 竹とんぼや竹カスタネット細工

夏休み子ども竹細工教室が25日、城陽市の今池コミュニティセンターで開かれた。親子連れ4組が参加し、竹とんぼや竹のカスタネット作りを楽しんだ。

NPO法人八幡たけくらぶが講師を務めた。たけくらぶは、普段から荒れた竹林を整備し、古い竹や折れた竹の有効活用を進めている。竹に触れる機会のない子どもに、竹細工の魅力を知ってもらおうと企画した。

### 城陽

参加者は竹をのこぎりで切ったり、絵を描いたりしてオリジナルの竹細工に挑んだ。青竹を縦に割る所を目の当たりにすると「すごい」「かっこいい」と笑顔を見せた。

完成した竹とんぼを遠くまで飛ばした寺田西小1年の三科凛太郎くん(7)は「最初は50センチが飛ばなかったけど、たくさん飛んで楽しかったと話した。



竹細工教室でのこぎりを使って竹を切断する参加者(城陽市・今池コミュニティセンター)

## 夏休み 児童ら工作楽しむ教室

山城

「世界竹の日」八幡でイベント

竹筒鳴らし音楽楽しむ



竹筒から生まれる多彩な音色やリズムを楽しむ参加者ら(八幡市八幡・松花堂美術館)

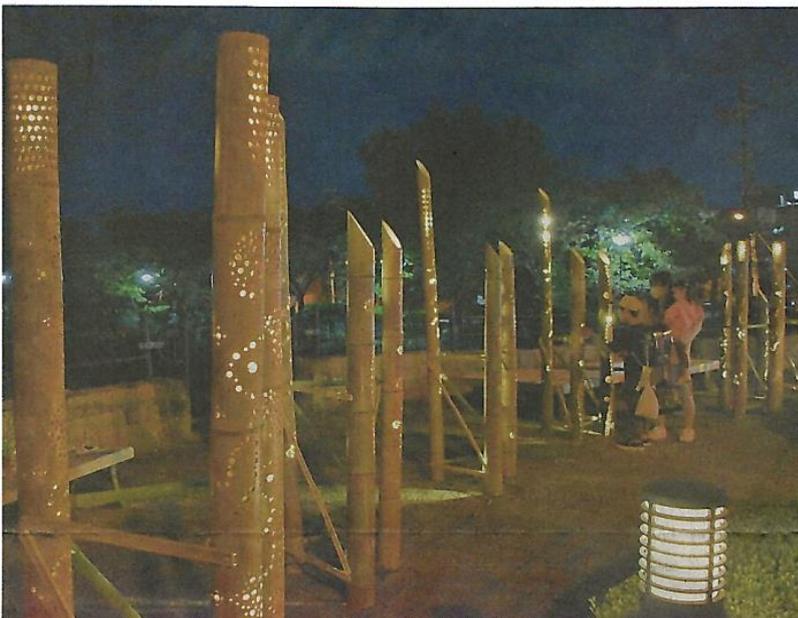
「世界竹の日」の18日、竹筒を打ち鳴らし音楽を奏でるイベントが八幡市八幡の松花堂美術館で開かれた。約30人が参加し、さまざまな長さに切った筒

から生まれる豊かな響きを楽しんだ。茶道家や竹細工作家、研究者などでつくる「竹文化振興協会」(京都市)は毎年この日に講演会などを開い

り組むNPO法人「八幡たけくらぶ」がマダケを用意した。親子連れなどがのこぎりで切ったり、節を抜いたりして、長さ10センチ〜1メートルほどの竹筒を作った。5人ほどのグループごとに、竹筒をコンクリートブロックに打ち付けて鳴らす合奏を練習。多彩なリズムや音色を織り交ぜながら、竹筒の先を手でふさいで響き方を変えたり、音量に強弱を付けたりと工夫し、息の合った演奏を披露し合った。

大阪府交野市から両親と参加した高井千とせさん(9)は「竹はつるつるしていた。高い音や低い音が出て楽しかった」と喜んで

(田中恒輝)



市民らの目を楽しませた18本の「竹あかり」(八幡市男山・さくら近隣公園)

竹のあかり 八幡に光

エジソンちなみ企画

トーマス・エジソンが白熱電球の実用化に成功したことにちなんで「あかりの日」の21日、八幡市男山で「竹あかり」の光がまちの一角を彩った。

竹あかりは一夜限りで、「さくら近隣公園」前に高さ1.5〜2.5メートルの竹筒18本が並んだ。大小さまざまな穴を開けて模様を描いた竹の中に、LEDライトを入れてあかりをともした。

エジソンは八幡の竹を使って電球の寿命を延ばしたとされる。NPO法人「八幡たけくらぶ」が企画し、住民たち約20人が準備に参加した。

午後6時に点灯し、スマートフォンで写真撮影を楽しむ学生や、手をつないで柔らかな光を見つめている親子の姿が見られた。

(鷹塚朱里)

# 創立20周年特集

## ■歴代の代表・副代表紹介

<任意団体期間>

年度	役員／代表・副代表	トピックス等	備考
2003 ～2005	鶴見達也(代表) 石野善幸(副代表)	・「八幡たけくらぶ」発足 ・救出ヤマザクラ開花 	 
2006	鶴見達也(代表) 寶田延由(副代表)	 救出後	
2007 ～2008	寶田延由(代表) 高橋皖文(副代表)	・粉碎機導入⇒ 	

## ■歴代の理事長・理事紹介

<NPO 法人化期間>

年度	役員／理事長・理事 等	トピックス等	備考
2009	西岡 力(理事長) 井藤 學(副理事長) 合田洋一 後藤文夫 岡本淳次 尾崎進 鶴見達也 寶田延由 三島之昌	・NPO 法人として認証・設立	
2010	西岡 力(理事長) 井藤 學(副理事長) 岡本淳次 (副理事長) 合田洋一 鶴見達也 尾崎進 寶田延由 三島之昌 三宅洋	・地権者筭掘り (小谷 F)	
2011	西岡 力(理事長) 井藤 學(副理事長) 岡本淳次 (副理事長) 合田洋一 鶴見達也 日高正昭 寶田延由 三島之昌 三宅洋 向井忠昭 森脇勉	・京都創造基金 ステップ3認証	
2012	西岡 力(理事長) 井藤 學(副理事長) 岡本淳次 (副理事長) 森脇勉(副理事長) 合田洋一 鶴見達也 日高正昭 寶田延由 三島之昌 三宅洋 向井忠昭	・男山展望台に「展望の館」開設 ・NHK「ニュース610」で生放映 ・京都環境フェスティバル初参加	
2013	森脇勉(理事長) 岡本淳次(副理事長) 三宅洋 西岡 力 井藤 學 合田洋一 鶴見達也 日高正昭 寶田延由 三島之昌 向井忠昭 熨斗信治	・八幡たけくらぶ発足10周年 ・全国レクリエーション協会より 「奨励賞」受賞	
2014	森脇勉(理事長) 西岡 力(副理事長) 熨斗信治 (副理事長) 三宅洋 日高正昭 岡本淳次 井藤 學 合田洋一 鶴見達也 寶田延由 三島之昌 向井忠昭	・会員数が3桁に到達	

## 創立20周年特集

### ■過去8年(2015～2022年度)の理事長・理事紹介

年度	役員／理事長・理事 等	トピックス等	備考
2015	森脇勉(理事長)、西岡力(副理事長)、熨斗信治(副理事長) 日高正昭(副理事長・会計)、三宅洋(事務局長)、井藤學、 大塚萬次郎、岡本淳次、岡本力夫、竹下修史、寶田延由、 米澤美代子	・展望台周囲に植栽／花梅 ツツジ・皇帝ダリア ・紫陽花	
2016	森脇勉(理事長)、西岡力(副理事長)、熨斗信治(副理事長) 日高正昭(副理事長・会計)、竹下修史(事務局長)、井藤學、 大塚萬次郎、岡本淳次、岡本力夫、小林喜美代、寶田延由	・整備竹林13カ所に拡大	
2017	森脇勉(理事長)、熨斗信治(副理事長)、日高正昭(副理事長) 竹下修史(副理事長・事務局長)、小林喜美代(会計) 寶田延由、岡本淳次、井藤學、岡本力夫、秋津川忠弘、 坂口光正、笹倉修	・日本観光振興協会関西支社 から感謝状	
2018	森脇勉(理事長)、熨斗信治(副理事長)、日高正昭 (副理事長)、竹下修史(副理事長・事務局長)、小林喜美代 (会計)、寶田延由、岡本淳次、井藤學、岡本力夫 秋津川忠弘、坂口光正、笹倉修	・亀岡市より生涯学習共生賞 「上田正昭賞」を受賞 ・財団法人京都オムロン地域 協力基金より「京都ヒューマ ン賞」受賞	
2019	竹下修史(理事長)、熨斗信治(副理事長)、日高正昭 (副理事長)、森脇勉(副理事長)、笹倉修(事務局長) 小林喜美代(会計)、岡本淳次、井藤學、岡本力夫、 坂口光正、甲村孝昭、坪倉定	・会報8号発刊(発足以来2年 毎に発刊)／1号:2005年発刊	
2020	竹下修史(理事長)、森脇勉(副理事長)、熨斗信治 (副理事長)、日高正昭(副理事長)、坪倉定(事務局長)、 小林喜美代(会計)、井藤學、岡本力夫、坂口光正、 甲村孝昭、梅津勉、森杉和司	・岡崎体育氏が竹細工体験、 KBS 京都「京の観察日記」で 制作模様を放映	
2021	竹下修史(理事長)、森脇勉(副理事長)、熨斗信治 (副理事長)、日高正昭(副理事長)、坪倉定(事務局長)、 小林喜美代(会計)、井藤學、岡本力夫、坂口光正、 甲村孝昭、梅津勉、森杉和司	・八幡宮各坊(瀧本坊、泉坊、 橘本坊、中坊等)の整備 ・竹灯を製作し「竹あかりの夕 べ」に松花堂美術館にて 展示	
2022	竹下修史(理事長)、森脇勉(副理事長)、熨斗信治 (副理事長)、日高正昭(副理事長)、坪倉定(事務局長)、 小林喜美代(会計)、井藤學、岡本力夫、坂口光正、 甲村孝昭、梅津勉、森杉和司	・石清水八幡宮本殿の見学 会実施 ・八幡市から八幡市文化賞功 労賞を受賞	

## 20周年特別掲載

<理事長:6年間の思い／2013年～2018年>

森脇 勉



4代目理事長として2013年6月の総会で西岡 力さんより引き継ぎをしました。当時会員数は89名ほどでしたので西岡さんからは何とか三桁の会員にしたいとの思いを聞いておりましたが翌年には100名を超えるまでになり、それ以降も増加し続けていることはたけくらぶが生成発展していることを証

明しており大変うれしく思っております。会員の増加のポイントは何かといっても展望の館開設にあると思います。2012年6月大寅蒲鉾の小谷会長様のご厚意から、男山展望台にあった茶店跡を「八幡たけくらぶの集会所」として無償で借用でき、活動拠点が出来たことが大きかったと思います。

理事長時代で一番の思い出は、2018年に2度にわたり、外部表彰を受賞したことです。2月12日には亀岡市から「生涯学習共生賞(上田正昭賞)」で30万円の賞金を頂いたことです。この賞は竹と樹木の共生のための活動を通じて自然環境を保全することを基本方針とした私達の日頃の活動に対して贈られたものです。



### 2018年度 京都ヒューマン賞贈呈式



今一つは、6月5日に公益財団法人(京都オムロン地域協力基金)からの表彰で、「京都ヒューマン賞」を受賞し、100万円の賞金も頂いたことです。この賞は、京都府において地域福祉の向上、青少年の健全育成、生活環境・地球環境の整備等の分野での地域貢献活動を行い、顕著な功績をあげた個人若しくは団体に授与されるものです。当日は京都リーガルロイヤルホテルで、府知事や京都副市長も参列され、表彰式並びにレセプションがあり、たけくらぶからも18

名参加しました。こうした外部表彰は、大変名誉なことであり、会員一人ひとりの大きな励みとなったものと思います。

最後に「良き伝統は語り継がれて、継承される」という教えがありますが、たけくらぶの活動基本方針と、4つのお役立ちの考えを、忘れることなく継承して頂きたいと心から思います。



## 20周年特別掲載

<理事長:4年間の思い／2019年～2022年>

竹下 修史



NHKの大河ドラマで「真田丸」が放映されて兜、それからランプシェードなども試みました。

現役の頃から竹細工に興味があり定年後たけくらぶに入会しました。竹細工教室で最初に習ったものは次年時の干支の午でしたから、若いころ競馬に熱中していたのを思い出して競走馬をいくつか作りました。その後、



2019年5月の総会で理事長に就任した頃から円福寺竹林の整備が始まりました。林野庁への交付金(森林・山村多面的機能発揮対策事業交付金)申請に対し無事3年間の許可が下り、竹の伐採を開始しました。円福寺の意向は樹木と竹林が混在しているため竹を皆伐する事により雑木林に変換する事でありましたので、片っ端から竹を伐採し始めましたが竹は無数にあり、伐っても、伐っても一向に減りませんでした。従来までは竹林整備は間伐作業として請け負ってきましたから、皆伐作業の大変さをまざまざと

見せつけられました。瞬間に3年が経ちましたが作業は目的とする半分を処理した程度でした。

一度林野庁へ申請した竹林は二度と申請できませんから、新しい竹林を探して申請しない限り2022年度以降は竹林整備による活動資金が途絶えます。円福寺竹林の皆伐を継続しながらこれ以上整備する場所を増やし資金調達すべきかどうか大変悩みました。丁度その時、京都モデルフォレスト協会から竹林を皆伐する際に民間から資金援助があるというプログラムを紹介されましたので、これは円福寺竹林の残り半分を処理するのにピッタリ合致すると思わずに飛びつきました。幸い、竹林を皆伐して樹木林への「樹種変換」作業における申請に対し、JR西日本の援助資金を回して頂くことになり、大変有難く思っている次第です。



私事ながら、当初は竹林整備をする傍ら竹細工に没頭していましたが、次第に竹林の整備にも力を入れ始めました。伐採竹を一定の長さに切って積み上げた時の美しさ、顔面をこする様な古くて硬い枝付き竹が粉碎機に吸い込まれチップと化し、集積した竹の山が綺麗に無くなった後の爽快感などはとても言葉では言い表せないほどすっきりした感じになります。皆さんと共にこれからも楽しみながら竹林整備をしていきたいと思っています。



## 20周年特別掲載

<永年会員の思い・印象的出来事／入会年：2004年～>

合田 洋一



発足後20年を迎え真におめでとうございます。  
私の入会は2004年なので約18年が経過しました。  
巷ではこのような団体の継続は難しく、ネックは会員の確保、資金面と言われ、その対策としてコミュニケーションの大切さが言われておりました。

そんな折研修旅行が話題となり、会発足以来初めてのことなので、皆さんに喜んで参加して もらえる企画をと大変不安で、鶴見さん、故米澤氏と3人で舞鶴へ下見に行き、ただ単なる遊興旅行ではなく「竹」に関する知識の習得を意識しました。(2008年からの研修旅行) 当時は会からの援助もなく会費オンリー「たけくらぶ」と言うよりは「さけくらぶ」と揶揄され収支が気になり特に宴会では実費精算なので大変苦勞をしたことが思い出されます。「たけくらぶ」がNPOとなり信用力が向上し、世間からも認知され会員も増加し、今後益々発展することを確認しております。勝手ですがこれからも自分の心体にあった活動に参加したいと思っております。

舞鶴 CO2 竹炭固定実験センターで:2006 年



宮津の木下酒造前:2007 年

舞鶴引揚記念館近くの海岸



伊根の舟屋/京都府:2007 年

<永年会員の思い・印象的出来事／入会年：2004年～>

船木 基志



「山桜救出大作戦」というのを新聞で見た。  
「みどりの会伏見桃山」というボランティアの会を立ち上げた時で同じようなことをされる人達もいるんだな～と見学させてもらった。男山の麓にあるお寺の竹山で孟宗竹との生存競争に負けた桜の老木が今にも倒れそうなひ弱な姿

でひっそり立っていた。周りは枯れ竹が入り混じったうっそうとした竹山で人の手で片付けられそうもないと思った。この竹山を、枝払いして同じ長さに揃えて積んでいくときれいな竹の山が次々と出来ていく…。これは私の“手法”に合うなと思った。20周年おめでとうございます。会員となって19年、たけくらぶと同じ歳月を歩んできていますが、このようなことを拠り所にしていきます。「凡事徹底」…“なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと” 又は “当たり前の事を極めて他の人の追隨を許さないこと”たけくらぶ を続けられた要因かな！！



2003 年 12 月  
竹林放置状態



2008 年 4 月  
救出後



## 20周年特別掲載

<永年会員の思い・印象的出来事／入会年:2004年～>

末光 和子



「たけくらぶ20年をかえりみて」：私が入会したのは会社を退職し、早起しなくてゆっくり出来る らくちんらくちんとだらだらとした日々を過ごして、それも退屈していた時、会社の先輩に誘われ、放置竹林の事を聞き再生プロジェクトを志し活躍されていた鶴見さんと出会い、男山の放置竹林の分布図を見せられその熱意に賛同、少人数ではありましたが、神應寺に拠点を置き、ハイキングコースの整備、竹に覆われ瀕死の桜の木の救出、和気あいあいと楽しい活動が始まり女性でも出来る竹の枝払いや、切揃えられた竹を運んだりの仕事、手先の器用な方々の昆虫の作品がNHKの電波にのったり、竹での飯盒炊飯の様子が全国ネットで放映され、思いがけず東京の従兄弟から“テレビ見たでー”と電話があったり楽しいことがありました。竹林整備の一番の楽しみは、年に一度の“たけの子掘り”、みんなで掘ったたけの子を神應寺さんの大釜で茹で料理を作り、救出した桜の下で一般の人たちも参加しての宴会、それは楽しいものでした。お仲間も増え、展望台に行くと精力的に竹細工をしたり、周辺の整備に余念のない皆さんに元気をもらい、ランチ時のおしゃべりタイムは一服の清涼感を覚え、又頑張ろうと元気をもらった。コロナまえには年一度の忘年会や慰安旅行(研修旅行)、バスの中ではおしゃべり、カラオケ、クイズ等々幹事さんの盛り沢山の思考を凝らした企画に大満足。十人足らずから始まった“たけくらぶ”も今や百人を超える方々の賛同、女性会員も増え NPO“たけくらぶ”になり竹林整備場所や活動場所も多岐に渡り歴代の理事長はじめ理事の方々のご苦勞もいかばかりかとお察し致します。長きに渡り活動を共にした友との悲しい別れもあり心が痛んだこともありました。世の定めとはいえ悲しいものです。私も82歳になり足腰が弱くなり竹林に入ることも出来なくなりました。唯一の楽しみは展望台に当番で竹細工の販売に従事、安らぎを覚え、皆さんから活力と元気を頂いております。この二十年私の心に残る一番の財産は多くの友人に出会えたことです。“たけくらぶ”は不滅です。今後ズーと長く続きます様祈念し筆を置きます。



桜の木の救出  
2008年4月



神應寺でらこやでの竹細工教室風景

文化祭では会計担当のお二人

<永年会員の思い・印象的出来事／入会年:2004年～>

米澤 美代子



2003年八幡に転居し、2004年に「八幡たけくらぶ」に主人と共に入会いたしました。当初は集まる場所には我家から徒歩で参加しておりましたが、竹林の作業には複数の方々に車で送迎して頂き、現在の展望台にも送迎して頂いております。大変お世話になって感謝しております。入会后、運営委員、文化協会の役等、色々参加し、文化祭(右写真参照)や子供文化祭と毎回参加しております。コロナで、しばらく取りやめになっていたこともありましたが、今年より再開になり、今まで参加していた行事のことも思い出しております。ボケ防止にも役立っていると思っています。年末には、若竹飾り、ミニ若竹も準備が大変ですが出来上がりが楽しみです。主人が亡くなり13年経ちましたが長く続いていると思います。今では少しですが展望台に作品も出し、他の事でも協力しようと、紙袋を作り直して手提げ袋を作成しています。不要になった紙袋のご協力をお願いします。それなりに充実しています。





## 八幡たけくらぶ沿革

- 2003年 4月に任意団体「八幡たけくらぶ」として発足  
八幡市民文化祭初参加、以後毎年参加
- 2004年 山桜救出大作戦開始(一般市民公募で実施)  
こもれび散策ルートの南斜面に紅葉の苗木植樹
- 2005年 活動記録「会報1号」発刊  
NHK テレビの収録と放送「西日本の旅」で紹介
- 2006年 一般公募による第5回竹炭焼きイベント開催
- 2007年 京田辺市の小学校で竹細工教室開催(4年生3クラス)
- 2008年 粉碎機導入による竹の粉碎活動開始
- 2009年 NPO 法人として認証・設立
- 2010年 第5回一泊研修旅行開催(鳥取県庁訪問)
- 2012年 男山展望台に集会所「展望の館」を開設  
NHK 京都の「ニュース610」で実況中継される  
京都環境フェスティバルに初参加
- 2013年 八幡たけくらぶ発足10周年  
林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策事業へ交付金申請/認証  
全国レクリエーション協会より「奨励賞」を受賞
- 2014年 会員数が3桁に到達
- 2015年 展望台に花梅・ツツジ・皇帝ダリヤ・紫陽花を植栽  
京都洛陽工業高校の模擬会社活動支援  
第10回一泊研修旅行開催(津山民芸社訪問)
- 2016年 燻竹同好会発足。整備竹林13ヶ所に拡大
- 2017年 日本観光振興協会関西支社から感謝状  
活動記録「会報7号」発刊(発足以来2年毎に発刊)  
里山再生協議会からの中古粉碎機購入により2機で粉碎開始
- 2018年 八幡たけくらぶ発足15周年  
亀岡市より生涯学習共生賞「上田正昭賞」を受賞  
財団法人京都オムロン地域協力基金より京都ヒューマン賞受賞
- 2019年 NPO 法人として認証・設立10周年  
活動記録「会報8号」発刊
- 2020年 安全委員会が第100回目の開催を達成(4月)
- 2021年 竹灯りを製作し「竹灯りの夕べ」に松花堂美術館前にて展示  
八幡市主催ネイチャーツアーのため八幡宮山麓にある各坊の整備
- 2022年 石清水八幡宮本殿の見学会実施  
八幡市主催「愛媛県八幡浜市」の中学生交換交流会にて竹灯り作製指導  
八幡市から八幡市文化賞功労賞受賞

## 会報9号 編集後記

従来は二年に一度の会報発刊を行ってきましたが、作業量等を鑑み今回から発足後節目の年に発刊することに変更いたしました。今年はその節目の年に当たり、創立20周年となりますので、従来の会報に20年の歴史を含む特集版を追加しました。皆様方のご協力のもと、編集委員が知恵を絞ってまとめ上げました。思い出深く読まれる方、どんな活動をしているのだろうと興味を持って読まれる方等様々でしょうが、気軽に目を通して頂ければ幸いです。

### 編集委員(五十音順)

甲村 孝昭、小林 喜美代、坂口 光正、竹下 修史、坪倉 定、森杉 和司

発刊日	2023年5月
発刊責任者	特定非営利活動法人 八幡たけくらぶ 理事長 竹下 修史
住所	〒614-8008 京都府八幡市八幡平ノ山85 (男山 展望の館)
電話番号	075-982-3695
E-mail	<a href="mailto:ytic2016@cap.ocn.ne.jp">ytic2016@cap.ocn.ne.jp</a> (八幡たけくらぶ)
URL	<a href="http://www.ytic03.jp/">http://www.ytic03.jp/</a>



NPO 法人

八幡たけくらぶ

